

IBM ThinkPad

セレクトドック （拡張ユニット機能）

ユーザーズ・ガイド

IBM

IBM ThinkPad

セレクトドック (拡張ユニット機能)

ユーザーズ・ガイド

注意

本書をお読みになり、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ず付録Dをお読みください。

電波障害自主規制届出装置の記述

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づく第一種情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

第1版 (1996年10月)

原典	P/N 73H9411 IBM ThinkPad SelectaDock II User's Guide
発行	日本アイ・ピー・エム株式会社
担当	ナショナル・ランゲージ・サポート

注意事項の見出しについて	vi
使用上の注意	vii
電源について	vii
本書について	ix
本書の構成	ix
第1章 セレクタドック（拡張ユニット機能）の紹介	1
標準機能	4
製品を確認する	5
各部の名称と機能	6
拡張ユニット部のインジケーター	11
第2章 セレクタドック・システムを使用する	13
ThinkPad システムのセットアップ	14
ポート・リプリケーター部の拡張ユニット部への取付けまたは取外し	19
ThinkPad の使用状態	24
ドッキングとアンドッキングを行うための ThinkPad の構成	26
コールド・ドッキングとアンドッキング	27
ホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキング	30
第3章 オプションの取付けと取外し	37
内部オプションの取扱いについて	38
ウルトラベイでのドライブの取付けと取外し	39
1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し	49
ハーフハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し	54
PCI/ISA アダプター・カードの取付けと取外し	59
PC カードの取付けと取外し	64
MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方	66
外付け SCSI 装置の接続	69
ラッチの解放	70
IDE セットアップ	70
第4章 機密保護機能を使用する	73
機密保護キー・ロックの使い方	74

MicroSaver ロックを使用してセレクトドック・ドッキング・システムを 固定する	78
第5章 セレクトドック・ドッキング・システムを共用する	79
セレクトドック・ドッキング・システムの共用について	80
セットアップ手順	81
第6章 SCSI コントローラーを使用する	85
SCSI ID の割当て	86
SCSI ポートのターミネーション (終端)	86
SCSI ソフトウェアのサポート	87
第7章 問題が起きたら・・・	89
問題を起こしている装置の判別	91
警告インジケーター	96
テストの実行方法	98
トラブルシューティング・ガイド	100
修理を依頼するときは	115
付録A. セレクトドック・システムを使用するときのヒント	117
ドライブ名	118
始動ドライブの選定	118
ディスク・ドライブの使用	121
DOS 用の複数 CONFIG 機能の使用	122
複数 CONFIG 機能がサポートされていないとき	122
オペレーティング・システムの使用上の注意事項	122
ソケット・サービスのパラメーター	123
ゲーム・ポート用 I/O アドレス	124
イーサネット・アダプター・カード用アダプター・コネクター	124
ISA または PCI アダプター・オプション・カードの使用上の注意事項	124
サスペンドおよびレジューム機能の制約事項	125
ケーブルのラッピング	125
Windows NT の使用	125
ThinkPad とセレクトドック・ドッキング・システムの電源のオン・オフ	125
ThinkPad のバッテリー・パックの充電	126

I/O 資源 X'330' から X'333' の割当ての制約事項	126
付録B. SCSI ソフトウェアを使用する	127
Windows 用 EZ-SCSI のインストール	130
DOS 用 EZ-SCSI のインストール	131
Adaptec EZ-SCSI の再インストール	133
詳しいオンライン情報の表示	133
フォーマット・ユーティリティー	134
付録C. 製品仕様	145
寸法	145
環境	146
電気特性	147
外部インターフェース	147
IBM 電源コード	148
付録D. 特記事項	149
特記事項	149
索引	151

注意事項の見出しについて

このユーザーズ・ガイドでは、注意していただきたいことに関する見出し用語を次のように定義して使用しています。

⚠危険

ユーザーに致命的な危険を及ぼす可能性のあること。この注意は、非常に危険な状態を引き起こす可能性のある指示の**前**、またはそのような危険な状態が起こる**前**に、文章で説明してあります。

⚠注意

ユーザーに危険を及ぼす可能性のあること。この注意は、危険な状態を引き起こす可能性のある指示の**前**、または危険な状態が起こる**前**に、文章で説明してあります。

重要

プログラム、装置、システム、またはデータに損傷を与える可能性のあること。この注意は、損傷を引き起こす可能性のある指示の**前**、または損傷が起こる**前**に、文章で説明してあります。

注

ヒント、ガイド、アドバイスなど。

電源について

⚠危険

オプションを取り付けたり取り外したりする前に電源コードをプラグから抜いてください。

⚠危険

電源は、ThinkPad の電源スイッチによって入れたり切ったりします。緊急の場合は、コンセントから拡張ユニット部の電源コードを抜き取って電源を切ってください。コンセントは、拡張ユニット部の近くにあり、容易にアクセスできるようになっていなければなりません。

⚠危険

感電を防止するために、次のことを守ってください。

雷鳴時には、電源コードやケーブル類の抜き差しをしないこと。また、ThinkPad のセットアップ、保守作業、または構成変更をしないこと。

電源コードは、正しく配線され接地されているコンセントに接続すること。

このThinkPad は接地する必要があります。

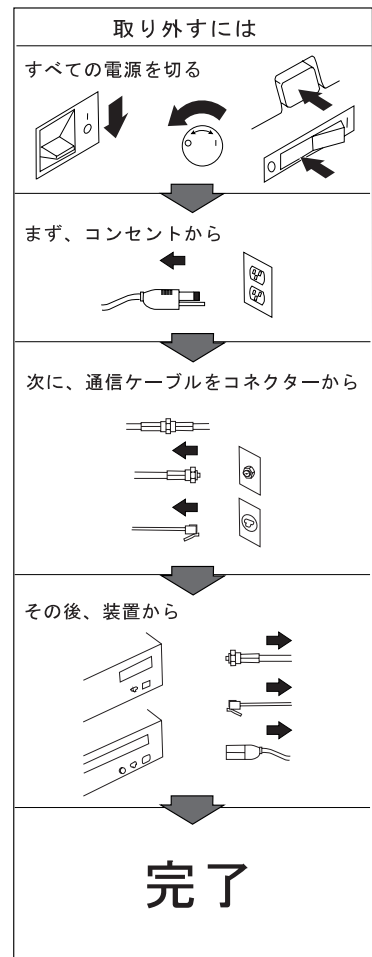
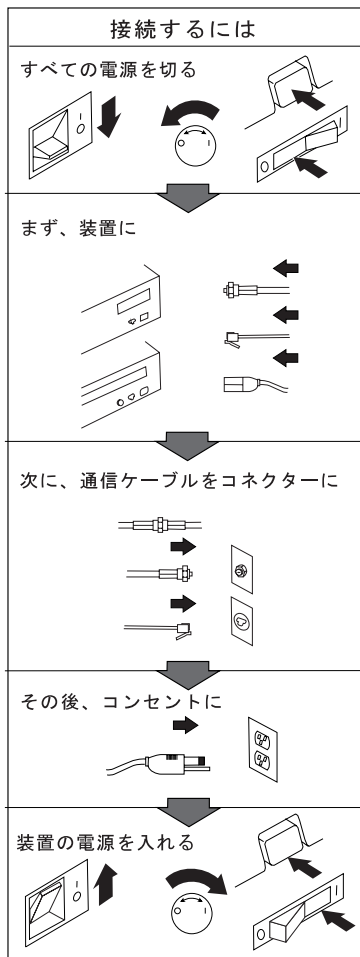
このThinkPad に接続する装置も、すべて正しく配線され接地されているコンセントに接続すること。

⚠危険

電源コードは、正しく接地された電源コンセントに接続してください。

ケーブル類の取付け、取外し順序

電源コード、電話ケーブル、および通信ケーブルには危険な電流が流れています。感電を防止するために、コンピューターまたは接続装置を設置または移動するとき、またはカバーを開ける際には、下記の手順でケーブルの接続および取り外しを行ってください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの接続および取り外しをしないでください。

本書の構成

このマニュアルは、IBM ThinkPad セレクタドック（拡張ユニット機能）を使用するために必要なことがらを説明しています。以下に本書の構成と各章の内容を紹介します。

第1章、『セレクタドック（拡張ユニット機能）の紹介』は、拡張ユニット部の機能を紹介しています。

第2章、『セレクタドック・システムを使用する』は、拡張ユニット部のセットアップ手順、操作方法、構成情報、およびセレクタドック・システムへの ThinkPad のドッキング方法とアンドッキング方法を説明しています。

第3章、『オプションの取付けと取外し』は、オプションの取付け方法と取外し方法を説明しています。

第4章、『機密保護機能を使用する』は、セレクタドック・システムを許可されていない人が操作できないように保護する方法と、盗難から保護する方法を説明しています。

第5章、『セレクタドック・ドッキング・システムを共用する』は、複数のユーザーが1つのセレクタドック・システムを共用する場合のシステムのセットアップ手順を説明しています。

第6章、『SCSI コントローラーを使用する』は、SCSI コントローラーの構成情報と使用方法を説明しています。

第7章、『問題が起きたら・・・』は、セレクタドック・システムの問題判別方法と解決策を説明しています。

付録A、『セレクタドック・システムを使用するときのヒント』は、セレクタドック(拡張ユニット機能)で ThinkPad を使用するとき役に立つヒントや使用上の制約を説明しています。

付録B、『SCSI ソフトウェアを使用する』は、SCSI デバイス・ドライバーと SCSI 診断ユーティリティ・プログラムをインストールして使用する方法を説明しています。

付録C、『製品仕様』には、拡張ユニット部の製品仕様がまとめてあります。

第1章 セレクタドック（拡張ユニット機能）の紹介

この章の内容:

標準機能	4
製品を確認する	5
各部の名称と機能	6
本体正面	6
本体側面	8
本体背面（背面カバーを取り外した図）	9
本体内部	10
拡張ユニット部のインジケーター	11

IBM ThinkPad セレクタドック（拡張ユニット機能）は IBM ThinkPad セレクタドック（ポート・リプリケーター機能）とともに使用するセレクタドック・システムで、IBM ThinkPad 760E シリーズのノートブック型のパソコンがドッキングできます。

重要

1. セレクタドック（拡張ユニット機能）は、PCI バス・アーキテクチャーの ThinkPad だけをサポートしています。セレクタドック（ポート・リプリケーター機能）は、PCI バス・アーキテクチャーの ThinkPad と ISA バス・アーキテクチャーの ThinkPad の両方をサポートしていますが、セレクタドック（拡張ユニット機能）は ISA バス・アーキテクチャーの ThinkPad はサポートしていません。サポートされていない ThinkPad をセレクタドック・システムにドッキングすると、警告インジケーターが点灯し、ピープ音が鳴ります。サポートされていない ThinkPad をセレクタドック・システムにホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキングすると、システムが自動的にシャットダウンします。
2. 必ずシステム ROM プログラムの最新バージョンを使用してください。14ページの『ThinkPad システムのセットアップ』をご覧ください。

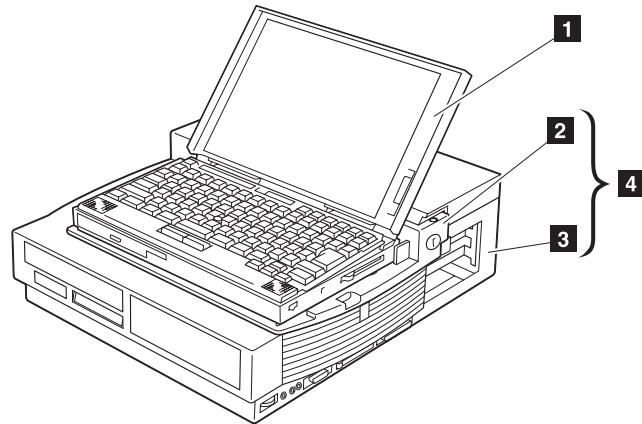
ドッキング・システムを使用するには、次のものがが必要です。

ThinkPad 760E シリーズのパソコン (以下、*ThinkPad* 1 と表記します)

セレクトドック (ポート・リプリケーター機能) (以下、*ポート・リプリケーター部* 2 と表記します)

セレクトドック (拡張ユニット機能) (以下、*拡張ユニット部* 3 と表記します)

セレクトドック・ドッキング・システム (以下、*セレクトドック・システム* 4 と表記します)は、ポート・リプリケーター部と拡張ユニット部で構成されます。



セレクトドック・システム 4 は、ThinkPad を取り付ける単体の装置として取り扱えます。このマニュアルでは、ThinkPad を *セレクトドック・システム* に取り付けることを *ドッキング* と呼び、*セレクトドック・システム* から取り外すことを *アンドッキング* と呼びます。ThinkPad は、*セレクトドック・システム* に *ドッキング* したり、*セレクトドック・システム* から *アンドッキング* したりできます。

セレクトドック・システム を使用することによって、ThinkPad の機能を著しく拡張することができます。

セレクトドック・システム は使いやすく設計されていますので、オペレーティング・システムのサポートによって、電源を入れたままで *ドッキング* (ホッ

ト・ドッキング) またはアンドッキング (ホット・アンドッキング) ができます。

また、セレクトドック・システムは強力な機密保護機能を備えており、セレクトドック・システム自身、およびその中の取外し可能な装置の盗難を防止できます。拡張ユニット部に取り付けたドライブに、ハード・ディスク・パスワードを使用することもできます。

また、拡張ユニット部にはウルトラベイが装備されています。ウルトラベイ仕様の CD-ROM ドライブ、ディスケット・ドライブ、または最大 2 台のハード・ディスク・ドライブを簡単に取り付けられます。

標準機能

次の表に拡張ユニット部の標準機能がまとめてあります。

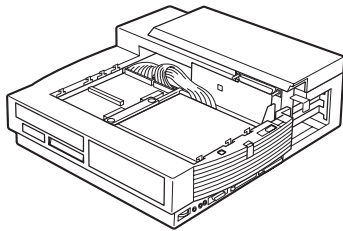
オーディオ機能	オーディオ出力ジャック スピーカー入力ジャック ヘッドホン・ジャック ステレオ・スピーカー
機密保護機能	機密保護キー・ロック PCMCIA カード (PC カード) ロック MicroSaver ロック (セレクトアドック (ポート・リプリケーター機能) と共用) 複数のユーザーをサポートする機密保護機能
外部ケーブル用コネクタ	セレクトアドック (ポート・リプリケーター機能) と加えて: マウス/ポインティング装置用コネクタ キーボード/数値キーパッド用コネクタ 外付けディスク・ドライブ用コネクタ パラレル・コネクタ シリアル・コネクタ 外付けディスプレイ用コネクタ
デスクトップと同等の機能	MIDI/ジョイスティック・ポート (ゲーム・ポートとも呼ばれる) フルサイズ PCI/ISA アダプター・カード共用スロット (2 個) ハーフサイズ PCI スロット (1 個) ウルトラベイ・トレイまたは 1 インチ・ハイト・ベイ ハーフハイト・ベイ 外付け SCSI 2 装置コネクタ PCMCIA スロット (2 個)

製品を確認する

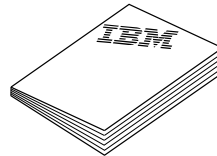
拡張ユニット部を開梱したら、次のものがそろっていることを確認してください。

万一、不足または損傷しているものがあれば、お買上げの販売店または IBM の担当営業員にご連絡ください。

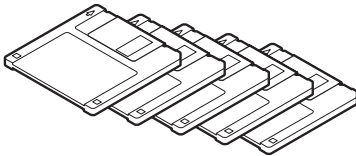
セレクトドック (拡張ユニット機能)



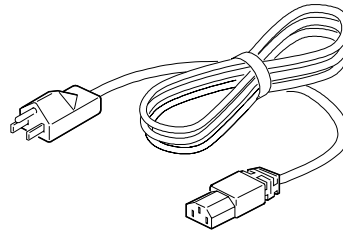
ユーザーズ・ガイド (本書)



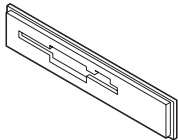
ディスケット 5 枚



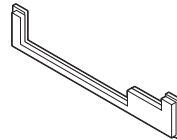
電源コード



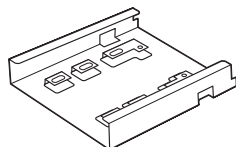
ディスケット・ドライブ用ウルトラベイ・ベゼル (目隠し板)



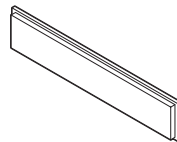
CD-ROM ドライブ用ウルトラベイ・ベゼル (目隠し板)



1 インチ・ベイ・トレイ



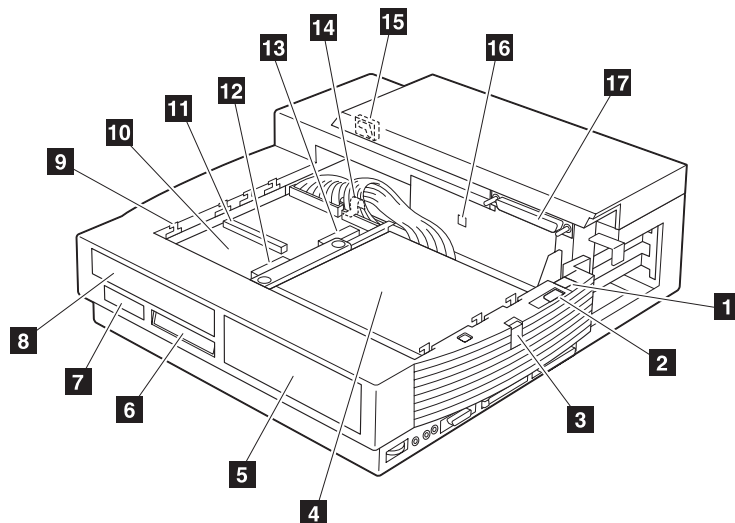
1 インチ・ハイト・ブランク・ベゼル (目隠し板)



各部の名称と機能

ここでは、拡張ユニット部各部の名称と機能を説明します。各コネクターの近くにシンボル・マークがついており、コネクターの役割が分かりやすくなっています。

本体正面



1 マルチユーザー・ロックは、機密保護を保ちながら、複数のユーザーがセレクトドック・システムを共用できるようにします。詳細は、81ページの『セットアップ手順』をご覧ください。

2 PC カード・ロックは、PC カードが取り外されないように保護します。詳細は、64ページの『PC カードの取付けと取外し』をご覧ください。

3 ポート・リプリケーター部ロックは、スライドさせてポート・リプリケーター部を所定の位置に固定します。詳細は、19ページの『ポート・リプリケーター部の拡張ユニット部への取付けまたは取外し』をご覧ください。

4 ハーフハイト・ドライブ・スペースには、IDE ドライブまたは SCSI ドライブなどのドライブを設置します。詳細は、54ページの『ハーフハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

5 ハーフハイト・ドライブ・スペース・ブランク・ベゼルは、ドライブ・スペースの前面を覆います。これは、拡張ユニット部に付いて出荷されています。

6 インジケーターは、拡張ユニット部の現在の状態を示します。詳細は、11ページの『拡張ユニット部のインジケーター』をご覧ください。

7 ウルトラベイ・イジェクト・ホールに指をかけて、ウルトラベイ・トレイを引き出します。詳細は、39ページの『ウルトラベイでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

8 ウルトラベイ・ブランク・ベゼルは、CD-ROM またはディスケット・ドライブをウルトラベイに取り付けるときに取り外します。これは、拡張ユニット部に付いて出荷されています。詳細は、39ページの『ウルトラベイでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

9 取付けガイドにポート・リプリケーター部スリットを挿入して取り付けます。詳細は、19ページの『ポート・リプリケーター部の拡張ユニット部への取付けまたは取外し』をご覧ください。

10 ウルトラベイ・トレイの上に、ウルトラベイ装置を取り付けます。詳細は、39ページの『ウルトラベイでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

11 ウルトラベイ・コネクタには、CD-ROM ドライブまたはディスケット・ドライブを接続します。詳細は、39ページの『ウルトラベイでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

12 ウルトラベイ前部 **HDD** コネクタには、ハード・ディスク・ドライブを接続します。これは、ウルトラベイの前の部分にあります。詳細は、39ページの『ウルトラベイでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

13 ウルトラベイ後部 **HDD** コネクタには、ハード・ディスク・ドライブを接続します。これは、ウルトラベイの後ろの部分にあります。詳細は、39ページの『ウルトラベイでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

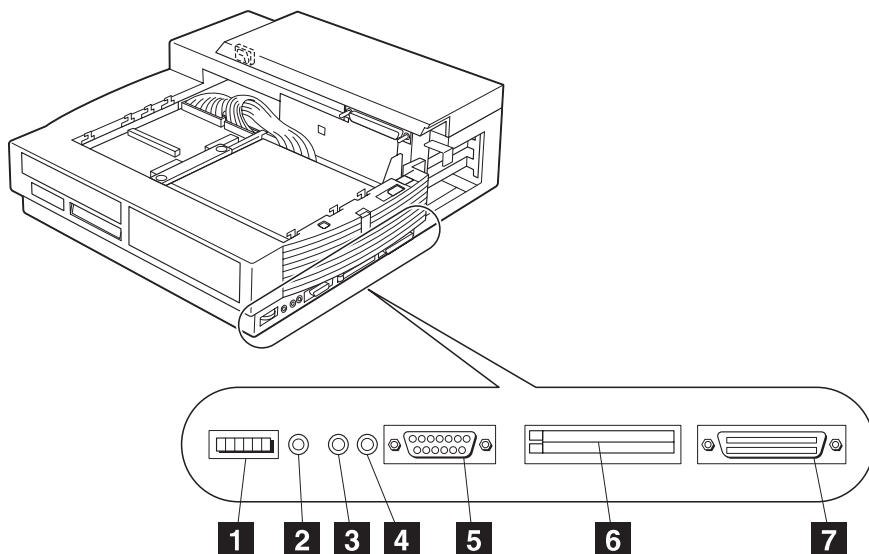
14 ウルトラベイ・ロックは、ウルトラベイ・トレイを拡張ユニット部に固定します。詳細は、49ページの『1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

15 **MicroSaver** ロック・ホールで MicroSaver ロックを挿入します。詳細は、78ページの『MicroSaver ロックを使用してセレクトドック・ドッキング・システムを固定する』をご覧ください。

16 機能ジャンパーは、ジャンパー・ブロックによってジョイスティックの機能を使用可能または使用不可にします。詳細は、66ページの『MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方』をご覧ください。

17 ポート・リプリケーター部コネクタは、ポート・リプリケーター部を接続するシステム・インターフェースです。詳細は、19ページの『ポート・リプリケーター部の拡張ユニット部への取付けまたは取外し』をご覧ください。

本体側面



1 音量調節つまみで、ステレオの音量を調節します。

2 ヘッドホン・ジャックに、ヘッドホンのプラグを接続します。

3 オーディオ出力ジャックには、オーディオ・ステレオ出力が出力されます。ここに外付けオーディオ装置の入力プラグを接続します。

4 スピーカー入力ジャック^{*}は、オーディオ・ステレオ入力を入力します。ここに外付けオーディオ装置のライン出力プラグを接続します。この信号は、ウルトラベイ CD-ROM オーディオおよび ThinkPad からのオーディオと内部で合成されます。

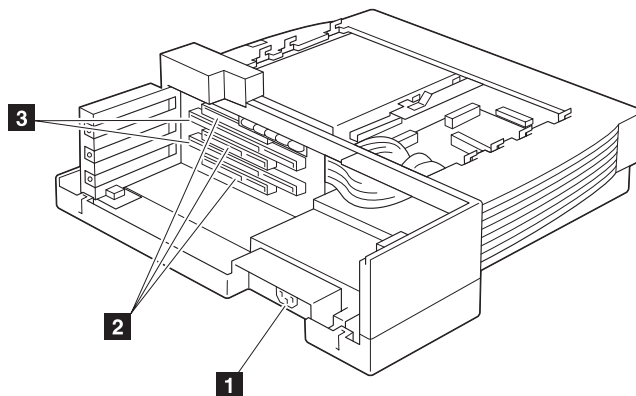
5 **MIDI**/ジョイスティック・ポートには、MIDI/ジョイスティック・ケーブルを接続します。詳細は、66ページの『MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方』をご覧ください。

6 **PCMCIA** スロットには、ThinkPad の PCMCIA スロットに使用できるカードと同じ仕様の、68 ピンのクレジット・カード・サイズの PC カードを挿入します。詳細は、64ページの『PC カードの取付けと取外し』をご覧ください。

7 **SCSI** コネクターには、SCSI (スカジー : Small Computer System Interface の略) 2 装置のケーブルを接続します。詳細は、69ページの『外付け SCSI 装置の接続』をご覧ください。

^{*} このスピーカー入力ジャックは、セレクトドック・システムのスピーカー用であり、ThinkPad のスピーカー用ではありません。

本体背面（背面カバーを取り外した図）



1 電源コード・コネクタには、AC 電源コードを接続します。

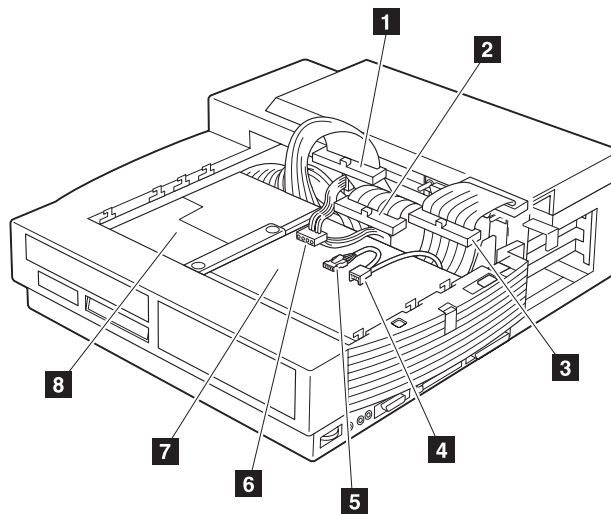
2 PCI アダプター・カード・コネクタには、PCI アダプター・カードを挿入します（注参照）。詳細は、59ページの『PCI/ISA アダプター・カードの取付けと取外し』をご覧ください。

3 ISA アダプター・カード・コネクタには、ISA アダプター・カードを挿入します（注参照）。詳細は、59ページの『PCI/ISA アダプター・カードの取付けと取外し』をご覧ください。

注: ISA または PCI のフルサイズ・アダプター・カード 2 枚、および PCI ハーフサイズ・アダプター・カード 1 枚を同時に挿入できます。

背面カバーの取り外し方法については、手順 7 をご覧ください（59ページの『アダプター・カードの取付け』）。

本体内部



1 ハーフハイト・ドライブ・スペース **IDE** コネクターは、IDE ドライブをハーフハイト・ドライブ・スペースに接続するときに使用します。詳細は、54ページの『ハーフハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

2 ハーフハイト・ドライブ・スペース **SCSI** コネクターは、SCSI 装置をハーフハイト・ドライブ・スペースに接続するときに使用します。詳細は、54ページの『ハーフハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

3 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペース **SCSI** コネクターは、SCSI 装置を 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースに接続するときに使用します。詳細は、49ページの『1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

4、5 オーディオ装置コネクターの 1 つに、拡張ユニット部にとりつけるオーディオ装置を接続します。

6 電源コネクターには、ドライブ用電源ケーブルを接続します。

7 ハーフハイト・ドライブ・スペースには、ハーフハイト・ドライブを取り付けます。詳細は、54ページの『ハーフハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

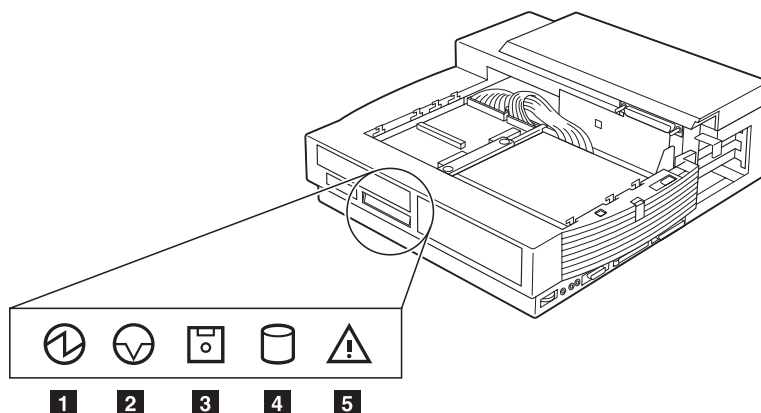
8 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースには、1 インチ・ハイト・ドライブを取り付けます。詳細は、49ページの『1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

拡張ユニット部のインジケータ




インジケータは、LCD の点灯、消灯、および点滅によって現在のシステム状態を示します。

次の表に各インジケータの名称とその意味がまとめてあります。

注: インジケータ 1 のマークと名称は、表の説明のように、ドッキングと電源のどちらかに変化します。図のインジケータは、コンピュータの電源が入ったときのインジケータ 1 です。



マーク	インジケータの名称	LCD の状態	意味
1	ドッキング	点灯	ThinkPad がセレクトドック・システムに正しくドッキングしている。
1	電源	点灯	ThinkPad の電源が入っている。 注: ThinkPad の電源が入ると、「ドッキング」のインジケータが「電源」のインジケータに変わります。
2	サスペンド	点灯	ThinkPad がサスペンド状態である。

マーク	インジケータの名称	LCD の状態	意味
3	 ディスケット・ドライブ	点灯	ThinkPad のディスク・ドライブがアクセスされている。 注: 1. 外付けディスク・ドライブを使用しているときは、IBM ThinkPad FDD 外付けキットのランプが点灯します。 2. ウルトラベイのディスク・ドライブを使用しているときは、そのドライブのランプが点灯します。
4	 ハード・ディスク・ドライブ	点灯	拡張ユニット部のハード・ディスク・ドライブがアクセスされている。 注: このインジケータは、ThinkPad のハード・ディスク・ドライブのアクセスでは点灯しません。
5	 警告	点灯 または 点滅	操作を継続してはならない。詳細は、96ページの『警告インジケータ』をご覧ください。

第2章 セレクタドック・システムを使用する

この章では、セレクタドック・システムのセットアップ手順と使用方法を説明します。

この章の内容:

ThinkPad システムのセットアップ	14
ROM のセットアップ	14
ThinkPad 機能設定プログラムのセットアップ	14
OS/2 Warp 用 ThinkPad 機能設定プログラムのインストール	14
DOS 用 ThinkPad 機能設定プログラムのインストール	16
Windows V3.1 用 ThinkPad 機能設定プログラムのインストール	16
ThinkPad 機能設定プログラムの Windows 95 へのインストール	17
ポート・リプリケーター部の拡張ユニット部への取付けまたは取外し	19
ポート・リプリケーター部の拡張ユニット部への取付け	19
ポート・リプリケーター部の拡張ユニット部からの取外し	23
ThinkPad の使用状態	24
ドッキングとアンドッキングによる ThinkPad の使用状態の変化	24
ThinkPad 使用状態の移行について	25
ドッキングとアンドッキングを行うための ThinkPad の構成	26
コールド・ドッキングとアンドッキング	27
コールド・ドッキング	27
コールド・アンドッキング	28
ホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキング	30
Windows 95 でのホット・ドッキングとウォーム・ドッキング	31
ドッキング	31
アンドッキング	31
DOS または Windows V3.1 でのホット・ドッキングとウォーム・ドッキング	32
ドッキング	32
アンドッキング	34
DOS または Windows V3.1 のホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキングの制限事項	35

ThinkPad システムのセットアップ

ROM のセットアップ

セレクトアドック・システムを ThinkPad システムで使用するとき、ThinkPad システムでは最新バージョンのシステム ROM を使用してください。以下の手順を実行してください。

1. 以下の事を確認してください。
 - ThinkPad の電源が切られていること
 - ThinkPad がアンドックされていること
 - ThinkPad のバッテリーが十分充電されていること
 - ThinkPad が AC アダプターに接続されていること
2. セレクトアドック に付属のシステム・プログラム・サービス・ディスクレットを ThinkPad のディスクレット・ドライブに挿入します。
3. 電源を入れます。
4. 「システム・プログラムの更新」をメニューから選んで実行してください。
5. システム ROM バージョンが最新のものであるかどうかを示す情報が表示されます。

システム ROM バージョンがディスクレットのバージョンより新しい場合は、ThinkPad の ROM を更新する必要はありません。この場合は、プログラムを終了します。

システム ROM バージョンが最新ではない場合は、画面の指示に従ってシステム ROM を更新します。

注: システム BIOS の更新中は電源が切られないよう十分に注意してください。

ThinkPad 機能設定プログラムのセットアップ

OS/2 Warp 用 ThinkPad 機能設定プログラムのインストール

以下の手順で ThinkPad 機能設定プログラムをインストールします。

- 1** OS/2 を始動します。

2 OS/2 用ユーティリティー・ディスクをディスク・ドライブに挿入します

注: ユーティリティー・ディスクは ThinkPad 付属のものとセレクトドック 付属のものがあります。バージョンの新しい方をお使いください。

3 以下の手順で、ThinkPad システム・マネジメント・デバイス・ドライバーをインストールします。

- a) **OS/2 System** を開き、次に **システム設定** を開きます。
- b) **デバイス・ドライバーのインストール** を選びます。
- c) **インストール** ボタンをクリックします。
- d) **ThinkPad システム・マネジメント・デバイス・ドライバー** をクリックしてから、**OK** をクリックします。

4 OS/2 画面コマンド・プロンプトを開きます。

5 A: プロンプトにして `INSTALL2` と入力してから、**Enter** キーを押します。

画面の指示に従います。

6 以下の手順で、WIN-OS/2 セッションで Windows 用機能設定プログラムをインストールします。

- a) OS/2 画面を終了し、WIN-OS/2 全画面を開きます。
- b) 16ページの『Windows V3.1 用 ThinkPad 機能設定プログラムのインストール』の指示に従ってください。

7 以下の手順で DOS ThinkPad 機能設定プログラムをインストールし、PS2 コマンドを使用します。

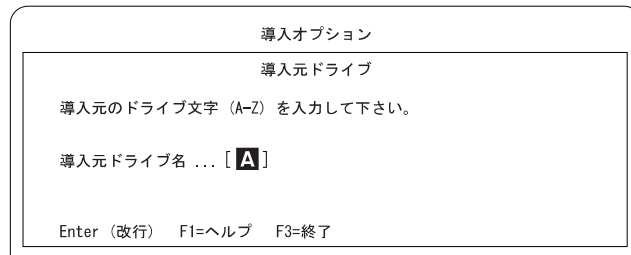
- a) WIN-OS/2 全画面を終了し、DOS 全画面を開きます。
- b) 16ページの『DOS 用 ThinkPad 機能設定プログラムのインストール』の指示に従ってください。

DOS 用 ThinkPad 機能設定プログラムのインストール

以下の手順で ThinkPad 機能設定プログラムをインストールします。

- 1 DOS を始動します。
- 2 DOS パーソナライゼーション用ユーティリティ・ディスクレットをディスクレット・ドライブに挿入します。
- 3 DOS プロンプトで A:UINSTALL と入力し、**Enter** キーを押します。

次のような画面が表示されます。



- 4 **Enter** キーを押します。
- 5 導入オプション画面で「**DOS ThinkPad 機能設定プログラム**」を選び、画面の指示に従います。

Windows V3.1 用 ThinkPad 機能設定プログラムのインストール

Windows を使用する場合は、最初に DOS 用 ThinkPad 機能設定プログラムをインストールします (16 ページをご覧ください)。次に、以下の手順を実行して、Windows バージョン3.1 (以降 Windows V3.1 と呼びます。)用をインストールします。

- 1 コンピューターの電源を入れて、Windows を始動します。

- 2 プログラム・マネージャー・ウィンドウから **アイコン** を選びます。次に、プルダウン・メニューから **ファイル名を指定して実行** を選びます。

プログラム・マネージャ	
アイコン(F)	オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
登録とグループの作成(N)...	
開く(O)	Enter
移動(M)...	F7
コピー(C)...	F8
削除(D)	Del
登録内容の変更(P)...	Alt+Enter
ファイル名を指定して実行(R)...	
Windowsの終了(X)...	

- 3 Windows 3.1/Windows 95 用ユーティリティー・ディスクットをディスクット・ドライブに挿入します。
- 4 A:¥INSTALLW と入力し、**Enter** キーを押します。
- 5 画面の指示に従います。

インストール・オプション画面に省略時選択項目が強調表示されています。

ThinkPad 機能設定プログラムの Windows 95 へのインストール

Windows 用機能設定プログラムは、Windows 95 上で使用できます。

DOS/Windows およびその ThinkPad 機能設定プログラムがすでにインストールされている ThinkPad に Windows 95 をインストールした場合、ThinkPad 機能設定プログラムは Windows 95 の「スタート・メニュー」に自動的に登録されます。

以下の手順で、ThinkPad 機能設定プログラムを始動します。

- 1** スタート をクリックします。
- 2** プログラムを選んでから、**ThinkPad** を選びます。
- 3** **ThinkPad** 機能設定プログラム を選びます。

Windows 95 を空のハード・ディスクにインストールした場合、または ThinkPad 機能設定プログラムをインストールしていない場合:

ThinkPad に付属しているユーティリティー・ディスクレットを使用して、以下の手順で ThinkPad 機能設定プログラムをインストールします。

- 1** Windows 3.1/Windows 95 用ユーティリティー・ディスクレットをディスクレット・ドライブに挿入します。
- 2** スタート をクリックします。
- 3** ファイル名を指定して実行 をクリックします。
- 4** a:INSTALLW と入力してから、**OK** をクリックします。
- 5** 画面の指示に従います。

ポート・リプリケータ部の拡張ユニット部への取付けまたは取外し

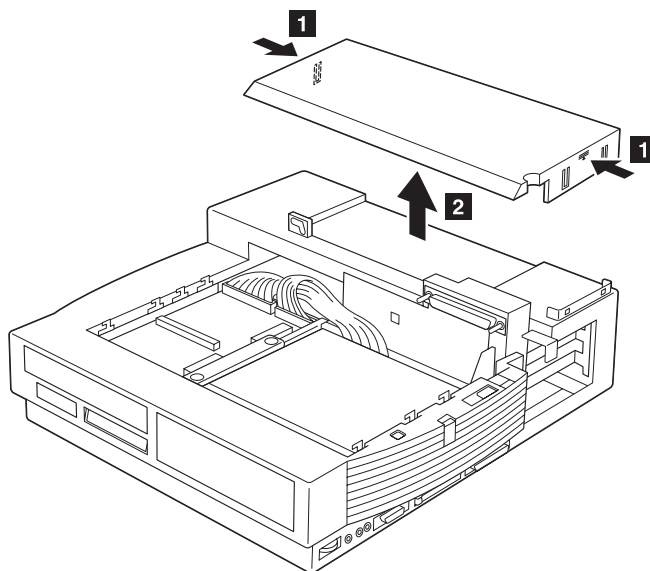
ここでは、ポート・リプリケータ部の拡張ユニット部への取付けまたは取外し方法を説明します。

第3章で説明するオプションを取り付ける場合は、ポート・リプリケータ部を拡張ユニット部へ取り付ける前にそれらを取り付ける必要があります。

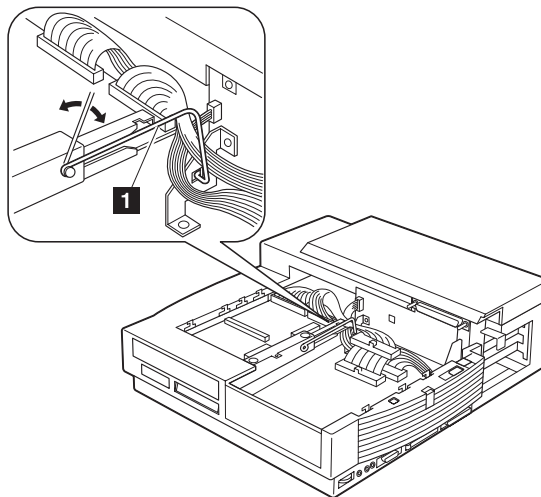
ポート・リプリケータ部の拡張ユニット部への取付け

以下の手順を実行して、ポート・リプリケータ部を拡張ユニット部に取り付けます。

- 1 カバーの穴からフックを引き抜いて、コネクター・カバー 1 を拡張ユニット部から外します。カバー 2 を持ち上げます。

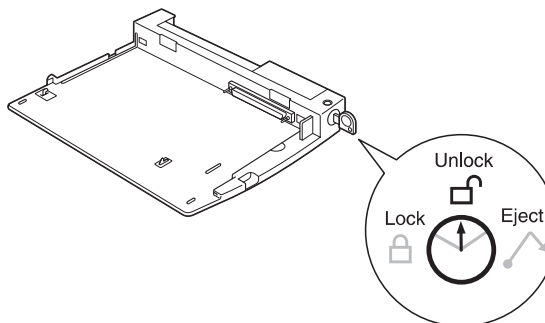


2 ワイヤー 1 を穴に入れて引っ掛けます。



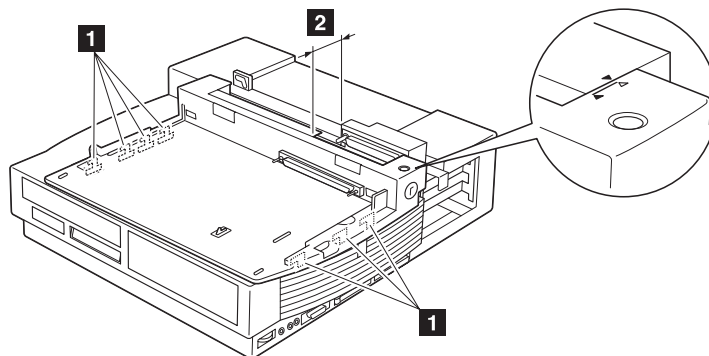
注: ポート・リプリケーター部を拡張ユニット部に設置できるように、ケーブルが束ねられて入っていることを確認します。

3 ポート・リプリケーター部の機密保護キーがロック解除の位置に設定されていることを確認します。



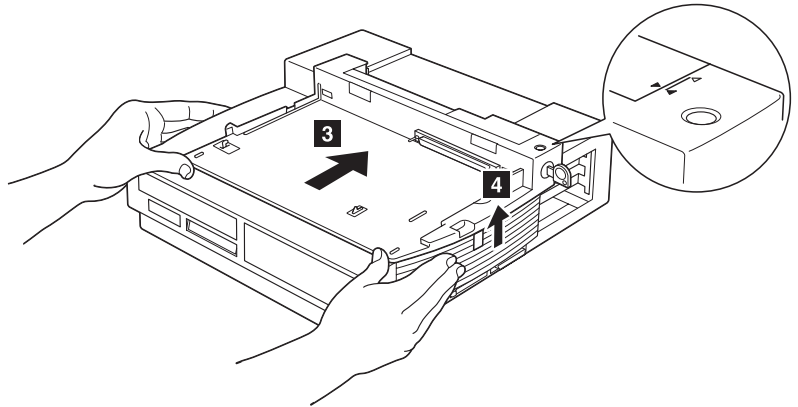
4 拡張ユニット部を適切な場所に置きます。ここでドライブまたはアダプターを取り付けたいときは、第3章をご覧ください。

5 拡張ユニット部の両側のドッキング・ガイド 1 を確認します。



6 ポート・リプリケータ部のスリットにドッキング・ガイドを合わせ、図に示すように約 12 mm のすき間 2 を空けてポート・リプリケータ部を拡張ユニット部の上に置きます。図のように、拡張ユニット部の三角形とポート・リプリケータ部の上の方の三角形 (図中白) を合わせて、ポート・リプリケータ部を拡張ユニット部の上に置きます。ポート・リプリケータ部が拡張ユニット部にぴったりと収まり、横方向にがたつかないことを確認します。

- 7** ポート・リプリケーター部 3 が挿入されて止まるまで、注意しながら滑らせて押し込みます。図のように、ポート・リプリケーター部の下の方の三角形 (黒) が拡張ユニット部の三角形と合うまで押し込みます。
- 8** ポート・リプリケーター部ロック 4 を起こして ポート・リプリケーター部を留めます。このロック板はポート・リプリケーター部の右側を固定するためのものです。



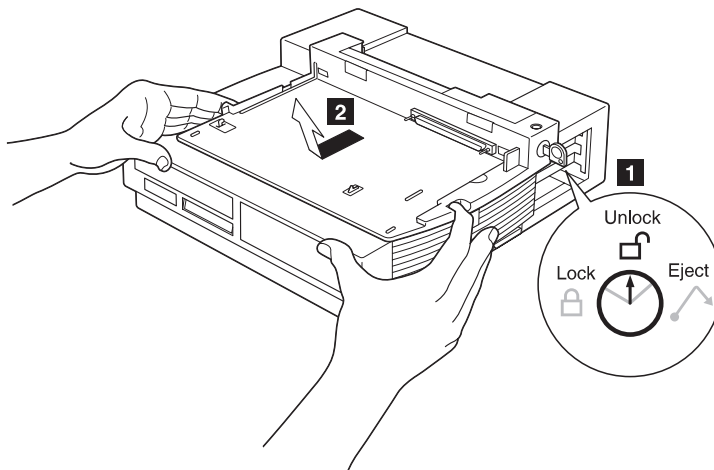
- 9** 図に示すように、コネクタ間にすき間ができないようにして、確実に接続してください。すき間があるときは、ポート・リプリケーター部と拡張ユニット部の三角形が一致するまで 2 本の矢印の部分強く押し付けて、隙間をなくしてください。
- 10** カバーの上の穴にフックを挿入して、コネクタ・カバーを拡張ユニット部に取り付けます。

これで、ポート・リプリケーター部の拡張ユニット部への取付けは終了です。

ポート・リプリケーター部の拡張ユニット部からの取外し

以下の手順を実行して、ポート・リプリケーター部を拡張ユニット部から取り外します。

- 1** カバーの穴からフックを引き抜いて、コネクタ・カバーを拡張ユニット部から外します。
- 2** ポート・リプリケーター部の背面から外部ケーブルをすべて取り外します。拡張ユニット部から電源コードを取り外します。
- 3** 機密保護キーがロック解除の位置 **1** に設定されていることを確認します。
- 4** ポート・リプリケーター部ロックを下にスライドさせて、ポート・リプリケーター部を解放します。



- 5** フィンガー・ホールに指をかけ、ポート・リプリケーター部が完全に外れるまで手前に水平に引き出してから持ち上げて取り外します **2**。
- 6** カバーの上の穴にフックを挿入して、コネクタ・カバーを拡張ユニット部に取り付けます。

これでポート・リプリケーター部の拡張ユニット部からの取外しは終了です。

ThinkPad の使用状態

このシステムを使用すると、ThinkPad の電源を切ってからできる通常のドッキングとアンドッキングのほかに、使用しているオペレーティング・システムによっては、ThinkPad が電源を入れて使用中のとき、サスペンド状態のとき、またはスタンバイ状態のときにドッキングまたはアンドッキングができます。(オペレーティング・システムがホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキングをサポートする場合)。

このマニュアルでは、ドッキングとアンドッキングの種類を次のように定義しています。

ホット・ドッキングまたはホット・アンドッキング

ThinkPad が電源を入れて使用中のとき、またはスタンバイ状態のときに行うドッキングまたはアンドッキング

ウォーム・ドッキングまたはウォーム・アンドッキング

ThinkPad がサスペンド状態のときに行うドッキングまたはアンドッキング

コールド・ドッキングまたはコールド・アンドッキング




ThinkPad の電源を切ってから行うドッキングまたはアンドッキング

ドッキングとアンドッキングによる ThinkPad の使用状態の変化

ThinkPad の使用状態 (サスペンド状態、スタンバイ状態、またはハイバネーション状態) はドッキングまたはアンドッキングによって変化しません。

ThinkPad 使用状態の移行について

次の表は、セレクトドック・システムにドッキングしている ThinkPad が各状態に移行できるか、また通常の使用状態に戻ることができるかについてまとめたものです。

移行しようとする状態	ThinkPad がその状態に移行できるか?	通常の使用状態に戻るためにパスワードが必要か?
サスペンド状態 ()	できる (注 1 参照)	始動パスワードの入力が必要になる (設定されているとき)。
スタンバイ状態 ()	できる。	不要。
ハイバネーション状態 	できる (注 2 参照)	始動パスワードの入力が必要になる (設定されているとき)。

注:

1. 使用しているオペレーティング・システムによっては、サスペンド状態への移行に制限があるものがあります。たとえば、OS/2 で実行中のもの、または SCSI デバイス・ドライバーがインストールされているものは、サスペンド状態に移行できません。
2. ハイバネーション状態でドッキングまたはアンドッキングしないでください。ハイバネーション中にドッキングまたはアンドッキングすると ThinkPad は正しくレジュームせず、システムをリブートします。

ドッキングとアンドッキングを行うための ThinkPad の構成

セレクトアドック・システムで ThinkPad を使用するには、ThinkPad と拡張ユニット部を次のように特別に構成しなければなりません。

ThinkPad と拡張ユニット部を最初にセットアップするときは、ThinkPad をコールド状態でドッキングしてください。

ThinkPad にインストールされている **ThinkPad** 機能設定プログラムを使用して、セレクトアドック・システムに取り付けられている装置にコンピューター資源を割り当てます。これは、コンピューター資源の競合の問題を防止するために、ThinkPad をセレクトアドック・システムにドッキングするときに必ず行わなければなりません。

使用しているオペレーティング・システムに、セレクトアドック・システムに取り付けられている装置に必要なデバイス・ドライバーをインストールします。

コンピューター資源の割当てとデバイス・ドライバーのインストールは、セレクトアドック・システムに新しいハードウェアを追加したときや、新しいソフトウェアを設定したときは必ず必要です。

PC DOS または **Microsoft Windows V3.1** を使用しているときにホット・ドッキングとウォーム・ドッキングが実行できるようにしたい場合は、次のセットアップを実行しなければなりません。

ThinkPad のドッキング・コントロール・プログラムを起動し、ホット・ドッキング/ホット・アンドッキングとウォーム・ドッキング/ウォーム・アンドッキングができるようにします。

これらのセットアップについての詳細は、30ページの『ホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキング』をご覧ください。

コールド・ドッキングとアンドッキング

ここでは、ThinkPad のセレクトドック・システムへのドッキング、またはセレクトドック・システムからのアンドッキング手順を説明します。

ドッキングするコンピューターは 760E シリーズの ThinkPad、または PCI バス・アーキテクチャーのコンピューターでなければなりません。まちがって ISA バス・アーキテクチャーのコンピューターをドッキングすると、警告インジケーターが点灯しピーブ音が鳴ります。

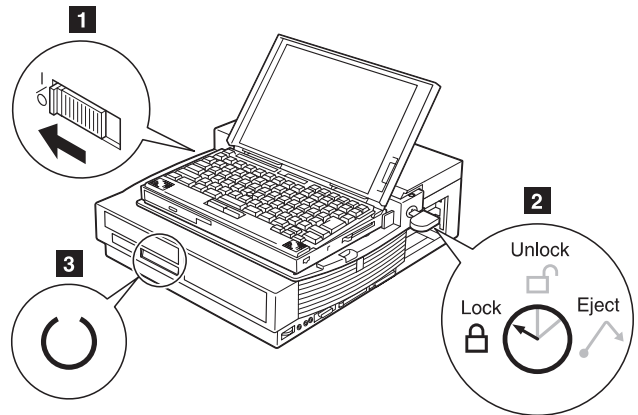
コールド・ドッキング

ThinkPad をコールド・モードでセレクトドック・システムにドッキングするには、以下の手順を実行してください。

- 1** ThinkPad の電源を切ります。
- 2** ThinkPad がポート・リプリケーター部にドッキングしているときは、アンドッキングします。

注: この手順を実行しているときにポート・リプリケーター部について知りたくなった場合は、セレクトドック (ポート・リプリケーター機能) セットアップ・ガイドをご覧ください。
- 3** 周辺装置のケーブルを、ThinkPad からすべて外します。
- 4** ThinkPad のキーボードの下のドライブを盗難防止したい場合は、ThinkPad をロックします。その手順については、ThinkPad のユーザーズ・ガイドをご覧ください。
- 5** 電源コードを拡張ユニット部の電源コネクタに差し込み、他端をコンセントに差し込みます。
- 6** ThinkPad をセレクトドック・システムにドッキングします。コンピューターをドッキングする手順がよく分からない場合は、セレクトドック (ポート・リプリケーター機能) セットアップ・ガイドをご覧ください。


7 ドッキングのインジケータ 3 が点灯していることを確認します。



8 装置を盗難から保護したいときは、機密保護キーをロックの位置 2 に回します。回した後はキーを取り外します。

9 電源スイッチ 1 で ThinkPad の電源を入れます。

セレクトドック・システムの電源が自動的に入ります。続いて ThinkPad がブートを始めます。拡張ユニット部の電源インジケータ

 が点灯していることを確認してください。

注: ここでオプションの装置をセットアップしたいときは、そのインストール手順について第3章 をご覧ください。

これでコールド・ドッキングの手順は終了しました。

コールド・アンドocking

ここでは、ThinkPad の電源スイッチが切つてあるときに ThinkPad をセレクトドック・システムからアンドockingする（コールド・アンドockingする）方法を説明しています。以下の手順を実行してください。

1 ThinkPad の電源を切ります。

2 機密保護キーをイジェクトの位置に回します。

ThinkPad が外れます。

3 ThinkPad を持ち上げて取り外します。

これでコールド・アンドockingは終了です。

ホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキング

ここでは、ThinkPad をセレクトドック・システムにドッキングまたはアンドッキングする手順を説明します。ホット・ドッキングおよびホット・アンドッキングとは、ThinkPad が電源が入った状態またはスタンバイ状態のときにドッキングおよびアンドッキングすることです。ウォーム・ドッキングおよびウォーム・アンドッキングとは、ThinkPad がサスペンド状態のときにドッキングおよびアンドッキングすることです。

ホット・ドッキングとウォーム・ドッキングができるかどうかは、使用しているオペレーティング・システムによって決まります。

Windows 95	DOS または Windows V3.1	OS/2 Warp 以降または Windows NT
ホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキングがサポートされます。 注: 123ページの『Windows 95』を参照。	Docking Control プログラムによってホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキングがサポートされます。	ホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキングがサポートされません。

使用しているオペレーティング・システムが、ホット・ドッキングとウォーム・ドッキングをサポートしているかどうかを調べるには、オペレーティング・システムのユーザーズ・ガイドをご覧ください。

注: DOS または Windows V3.1 を使用している場合は、ThinkPad の LCD の解像度が外付けモニターの解像度と同じでなければなりません。同じでない場合、ホット・アンドッキングまたはウォーム・アンドッキングしたときに LCD の画面が消えます。

重要

ホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキングを行うには、ThinkPad をセレクトドック・システムに少なくとも 1 回、あらかじめコールド・ドッキングする必要があります。

Windows 95 でのホット・ドッキングとウォーム・ドッキング

ドッキング

オペレーティング・システムは、コールド・ドッキングをした後でブートするときに、セレクトアドック・システムに取り付けられている装置およびそのほかの装置の構成を設定します。構成を設定した後は、ThinkPad をホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキングできます。セレクトアドック・システムの装置は、すぐに ThinkPad で使用可能になります。

アンドッキング

Windows 95 を使用しているときにホット・アンドッキングまたはウォーム・アンドッキングを行うには、以下の手順を実行してください。

- 1 拡張ユニット部から ThinkPad を取り外すには、次の 2 つの方法があります。

スタート・メニューで **Eject** を選びます。

機密保護キーをイジェクトの位置に回してからキーを抜き出します。

オペレーティング・システムにイジェクトの要求が渡されます。

オペレーティング・システムがイジェクトの要求を受け入れられると判断したときは、ThinkPad がイジェクトされます。

イジェクト処理を完了するために時間がかかる場合があります。イジェクト処理が完了したかどうかを調べるには、**start** アイコンをクリックします。「eject」が表示されるときは、まだアンドッキングの処理中です。これが表示されないときは、イジェクト処理は終了しています。

オペレーティング・システムが要求を受け入れられないときは、画面にその理由が表示されます。この場合は、コールド・アンドッキングを実行してください。

- 2 ビープ音が鳴ったときは、もう一度機密保護キーをイジェクトの位置に回して、ThinkPad をセレクトアドック・システムからイジェクトします。

DOS または Windows V3.1 でのホット・ドッキングとウォーム・ドッキング

ドッキング

DOS または Windows V3.1 を使用しているときにホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキングを行うには、以下の手順を実行してください。

- 1 ホット・ドッキングが実行できるように、**Docking Control** プログラムが起動していることを確認します。Docking Control プログラムを再インストールする必要があるときは、セレクトアドック（拡張ユニット機能）に付属のユーティリティー・ディスクレットからインストールできます。ユーティリティー・プログラムも更新する必要があります。

Docking Control プログラムには、次の 2 つのオプションがあります。

ホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキング（省略時の設定：使用不可）と、

ドッキング/アンドッキング時にピープ音を鳴らす（省略時の設定：使用可能）です。

Windows V3.1 では、以下の手順を実行してください。

ホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキング のオプションを使用可能にするには、

- a) **Docking Control** アイコンを選びます。
- b) 表示されたメニューで、ホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキングを使用可能にする を選びます。

ドッキング/アンドッキング時にピープ音を鳴らす のオプションを使用不可にするには、

- a) **Docking Control** アイコンを選びます。
- b) 表示されたメニューで、ドッキング/アンドッキング時にピープ音を鳴らさない を選びます。

DOS では、以下の手順を実行してください。

ホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキングができるようにするには、DOS のコマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
DOCK2 /ED
```

ドッキングしたときにピープ音が鳴らないようにするには、DOS のコマンド・プロンプトで次のように入力します。

DOCK2 /DB

- 2 ポート・リプリケーター部が拡張ユニット部に取り付けてあり、機密保護キーがロック解除の位置に回してあることを確認します。
- 3 電源コードが拡張ユニット部に接続してあることを確認します。
- 4 AC アダプター・コードが ThinkPad から外してあることを確認します。
- 5 ThinkPad を セレクタドック・システムにドッキングします。
拡張ユニット部の電源が自動的に入り、ピープ音が鳴ります（ピープを使用不可にしていないとき）。警告インジケーターが点滅します。
- 6 以下の手順を実行して、ホット・ドッキングを進めます。

Windows V3.1 では、次のことを実行します。

Docking Control プログラムによりダイアログ・ボックスが表示されます。その中のフルドック・ボタンを押してフルドッキングに進みます。パススルー・モードを継続したいときは、**PassThru** ボタンを押します。

DOS では、次のことを実行します。

DOS のコマンド・プロンプトで、次のように入力します。

C:¥THINKPAD¥DOCK2

続いて **Enter** キーを押します。

パススルー・モードを継続したいときは、次のように入力します。

C:¥THINKPAD¥DOCK2 /P

続いて **Enter** キーを押します。

注: この例では、プログラムは C ドライブにあります。

これでホット・ドッキングとウォーム・ドッキングは終了です。

アンドッキング

DOS または Windows V3.1 でホット・アンドッキングまたはウォーム・アンドッキングを行うには、以下の手順を実行してください。

- 1** セレクタドック・システムに取り付けられているハード・ディスク・ドライブ上にファイルを開いているアプリケーション・プログラム、またはアンドッキングによって切り離される装置を使用しているアプリケーション・プログラムをすべて閉じます。
- 2** Windows V3.1 ではドッキング・コントロール・アイコンをダブルクリックするか、または機密保護キーをイジェクト位置に回します。DOS では機密保護キーをイジェクト位置に回します。

これによって、ThinkPad にイジェクト要求信号が送られ、ピープ音が使用不可になっていないときはピープ音が鳴ります。ThinkPad がサスペンド状態になっていたときは、通常の使用状態に戻ります。

注: ThinkPad がサスペンド状態になっていないときは、最初に機密保護キーを回さなくても、UNDOCK2 コマンドまたは Docking Control プログラムを使用してアンドッキングできます。

- 3** 次のどちらかの操作を実行します。

Windows の場合は、Docking Control プログラムによりダイアログ・ボックスが表示されます。その中のイジェクトボタンを押します。

DOS の場合は、DOS のコマンド・プロンプトで次のように入力します。

C: ¥THINKPAD¥UNDOCK2

続いて **Enter** キーを押します。

- 4** システムがサスペンド状態になり、ピープ音が 2 回続けて鳴ります。再び機密保護キーを回して ThinkPad をイジェクトします。

これでホット・アンドッキングとウォーム・アンドッキングは終了です。

DOS または Windows V3.1 のホット / ウォーム・ドッキング / アンドッキングの制限事項

DOS または Windows V3.1 を使用している場合、オプション・ディスクレットに含まれる SCSI ドライバーをロードしたとき、または IDE ハード・ディスク・ドライブをインストールしたときは、ホット / ウォーム・ドッキング / アンドッキングはサポートされません。

第3章 オプションの取付けと取外し

オプションの装置を取り付けることによって セレクタドック・システムの処理能力を増大できます。この章では、オプションの取付け方法と取外し方法を説明します。

ポート・リプリケーター部に外付け装置を取り付ける手順については、*セレクタドック (ポート・リプリケーター機能) セットアップ・ガイド*をご覧ください。

この章の内容:

内部オプションの取扱いについて	38
ウルトラベイでのドライブの取付けと取外し	39
サポートされるドライブ	39
ドライブの取付け	40
ドライブの取外し	48
1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し	49
ウルトラベイ・トレイの取外し	49
ドライブの取付け	50
SCSI 装置の取付け	52
ドライブの取外し	52
ハーフハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し	54
ドライブの取付け	54
ドライブの取外し	58
PCI/ISA アダプター・カードの取付けと取外し	59
アダプター・カードの取付け	59
アダプター・カードの取外し	63
PC カードの取付けと取外し	64
プラグ & プレイ機能	65
DOS、OS/2 Warp、Windows V3.1、Windows NT、または Windows 95 の場合	65
MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方	66
外付け SCSI 装置の接続	69
ラッチの解放	70
IDE セットアップ	70

内部オプションの取扱いについて

⚠危険

オプションを取り付けたり取り外したりする前に電源コードをプラグから抜いてください。

重要:

オプションを取り付ける指示があるまで、オプションの入っている静電気防止用袋を開けないでください。静電気によってオプションを損傷することがあります。

オプションを取り付けるように指示があったときは、静電気防止用袋を開ける際に次のことを守ってください。

オプションの入った静電気防止用袋を拡張ユニット部の金属部分に最低 2 秒間接触させてください。これによって、袋と身体に帯びている静電気を取り除きます。

オプションの回路には触れないでください。

他の人がオプションに触れないように注意してください。

なるべく身体を動かさないでください。動くとき静電気を帯びる原因になります。

オプションは常に丁寧に扱い、端の部分を持ってください。

袋から取り出した後でオプションを一時的にどこかに置かなければならないときは、平な場所で静電気防止用袋の上に置いてください。オプションは金属性のテーブルの上に置かないでください。

拡張ユニット部のウルトラベイにダスト・カバーがかぶせてあるときは取り外します。

ウルトラベイでのドライブの取付けと取外し

ここでは、ウルトラベイでのドライブの取付け方法と取外し方法を説明します。

注: ウルトラベイ・トレイは、出荷時の拡張ユニット部に付属しています。ウルトラベイ・トレイを拡張ユニット部から取り外し、代わってその場所に 1 インチ・ハイト・ドライブを置くことができます。ウルトラベイ・トレイを取り外し、1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースとして使用する方法については、49ページの『1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し』をご覧ください。

サポートされるドライブ

ウルトラベイには、以下のどのドライブでも取り付けられます。これらの各ドライブは、ThinkPad 760E シリーズのウルトラベイにも使用できるものでなければなりません。

IBM ThinkPad 4 倍速 CD-ROM ドライブ

IBM ThinkPad 6 倍速 CD-ROM ドライブ

IBM ThinkPad ディスケット・ドライブ

IBM ThinkPad ハード・ディスク・ドライブ

最大 2 個の IDE ドライブを拡張ユニット部に取り付けられます。

重要:

セレクトアドック・システムには、ディスケット・ドライブを一度に 1 台だけ取り付けられます。外付けディスケット・ドライブを取り付けたときは、拡張ユニット部のウルトラベイにディスケット・ドライブを取り付けないでください。両方を取り付けて使用すると、ディスケットのデータが破壊される恐れがあります。

注: 互換性のないドライブがウルトラベイに取り付けられると、警告インジケータとピープ音により、間違ったドライブが取り付けられたことを警告します。

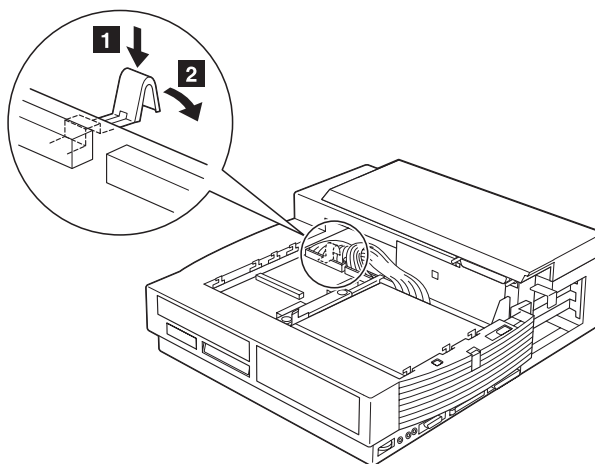
ドライブの取付け

ウルトラベイにドライブを取り付けるには、以下の手順を実行してください。

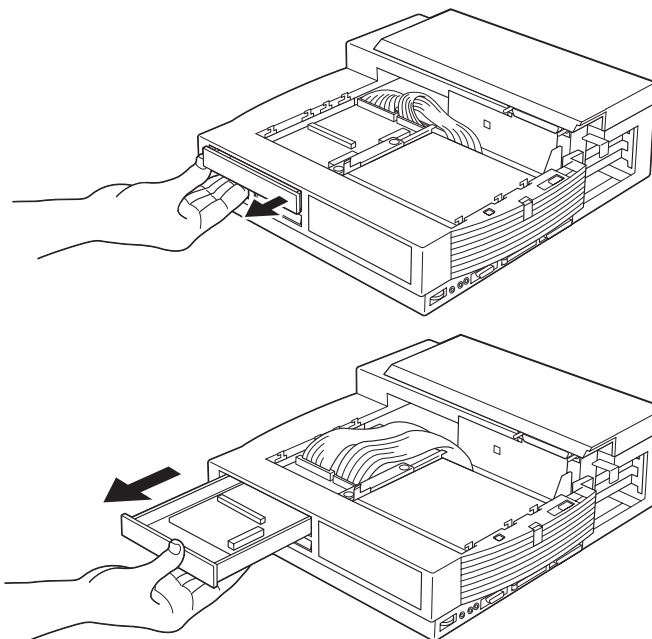
1 電源がオフになっていることを確認します。

2 CD-ROM ドライブまたはディスケット・ドライブを取り付ける場合、もしくはウルトラベイ前部 **HDD** コネクターを使用してハード・ディスク・ドライブを取り付ける場合は、次の手順を実行します。そのほかの場合は、手順 3 に進みます。

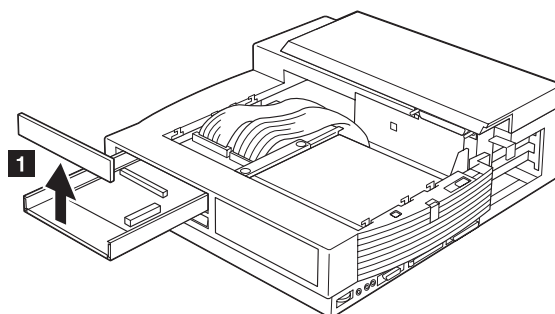
- a) ThinkPad をアンドッキングします。27ページの『コールド・ドッキングとアンドッキング』をご覧ください。
- b) ポート・リプリケーター部を拡張ユニット部から取り外します。23ページの『ポート・リプリケーター部の拡張ユニット部からの取外し』をご覧ください。
- c) ウルトラベイの背面のロック 1 を下に押し、ウルトラベイ・ロック・ノブのロックを外します。ウルトラベイ・トレイを固定する必要がない場合は、ロックを右側へ回転させた位置に置いておきます 2。



d) ウルトラベイが止まるまで引き出します。

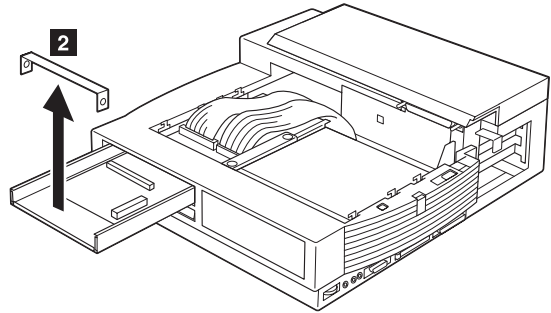


e) ブランク・ベゼル 1 を取り外します。

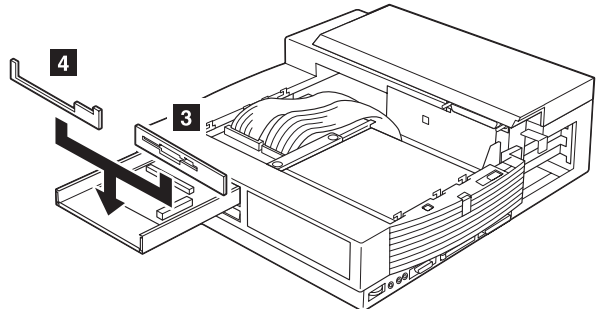


f) CD-ROM ドライブまたはディスク・ドライブを取り付ける場合は、次の手順を実行します。

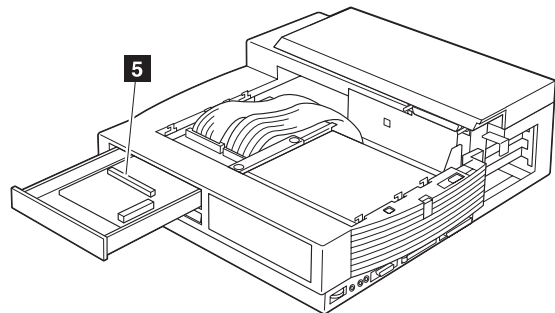
i. 金属ブラケット 2 を取り外します。



ii. ディスク・ドライブ用ウルトラベイ・ベゼル 3 または CD-ROM ドライブ用ウルトラベイ・ベゼル 4 を取り付けます。



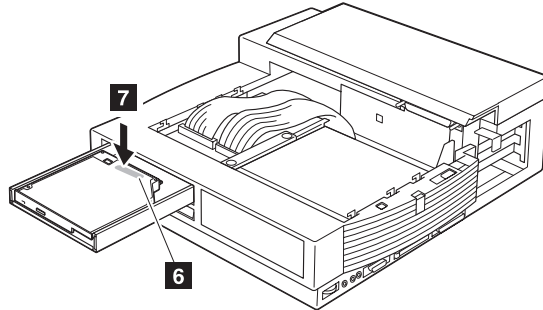
iii. ディスク・ドライブ用コネクターまたは CD-ROM ドライブ用コネクターを確認します 5 。



- iv. ドライブの位置を合わせてコネクタに挿入します。ドライブがしっかり入るまで、6 で示す箇所を押します 7。

重要:

ドライブに損傷を与えないために、6 で示した部分だけを押しつけてください。

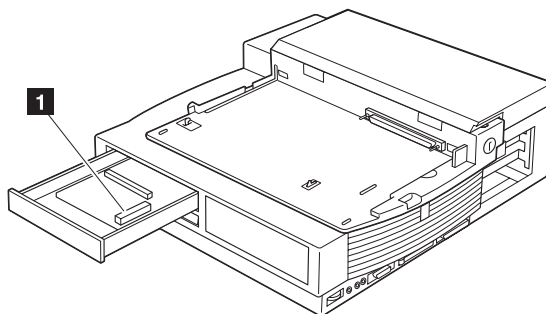


- v. ウルトラベイ・コネクタの横にある溝にCD-ROM ドライブまたはディスケット・ドライブの取外しハンドルを留めておきます。そうすることにより、取外しハンドルが他の部品に触れるのを防ぐことができます。
- vi. 金属ブラケットを取り付けます。
- vii. ウルトラベイ・トレイに押し込みます。
- viii. ポート・リプリケータ部を取り付けてから、ThinkPad をドッキングします。
- ix. 手順 4 (47ページ) に進みます。

⚠注意

- i. **CD-ROM** ドライブは、レーザー・システムを使用します。本製品を正しくご使用になるために、**CD-ROM** ドライブのマニュアルを注意してお読みください。マニュアルは、後で必要になることがあるので保管しておきましょう。装置の保守が必要な場合は、正規の担当者にお任せください。
- ii. 操作ボタン、調整つまみ、または指定されていない方法を使用すると、有害な放射線を浴びる場合があります。

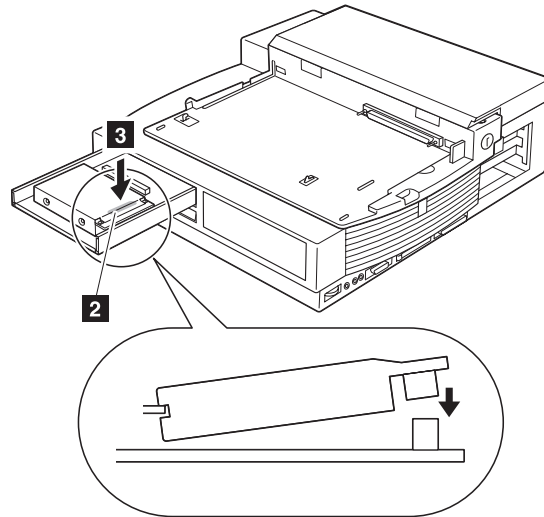
- iii. レーザー光線の直接の被ばくを避けるために、入れ物を開けないでください。
- g) ウルトラベイ前部 HDD コネクターを使用してハード・ディスク・ドライブをインストールする場合は、次の手順を実行してください。
 - i. ハード・ディスク・ドライブ用コネクターを確認します 1。



- ii. ドライブの位置を合わせてコネクタに挿入します。ドライブを挿入する前に、図に示すように拡張ユニット部とドライブの背面を合わせます。ドライブがしっかり固定されるまで、2で示す部分を押しします 3。

重要:

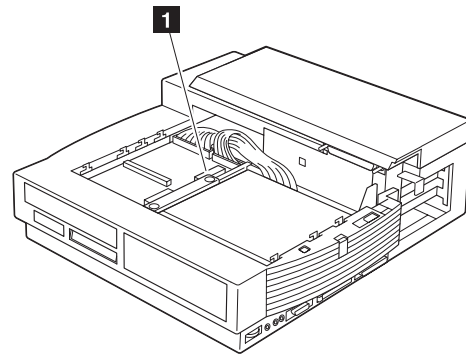
装置に損傷を与えないために、2で示した部分だけを押しつけてください。



- iii. ドライブの取外しハンドルを所定の穴にセットします。
- iv. ブランク・ベゼルを取り付けます。
- v. ウルトラベイ・トレイに押し込みます。
- vi. ポート・リプリケータ部を取り付けてから、ThinkPad をドッキングします。
- vii. 手順 4 (47ページ) に進みます。

3 ウルトラベイ後部 **HDD** コネクターを使用してハード・ディスク・ドライブをインストールする場合は、次の手順を実行してください。

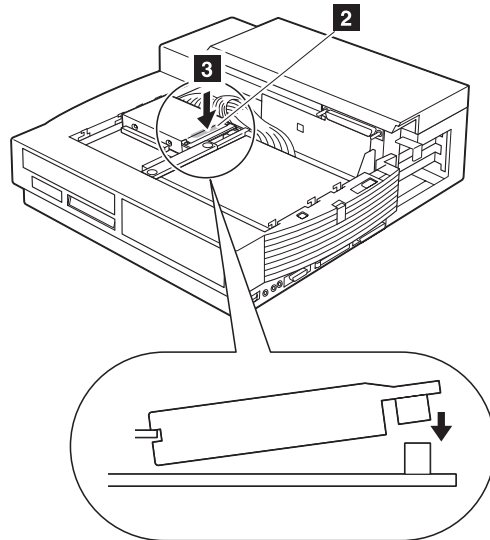
- a) ThinkPad をアンドッキングします。27ページの『コールド・ドッキングとアンドッキング』をご覧ください。
- b) ポート・リプリケーター部を拡張ユニット部から取り外します。23ページの『ポート・リプリケーター部の拡張ユニット部からの取外し』をご覧ください。
- c) ハード・ディスク・ドライブ用コネクターを確認します 1。



- d) ドライブの位置を合わせてコネクタに挿入します。ドライブを挿入する前に、図に示すように拡張ユニット部とドライブの背面を合わせます。ドライブがしっかり固定されるまで、2 で示す部分を押しす 3。

重要:

装置に損傷を与えないために、2 で示した部分だけを押しつけてください。



- e) ドライブの取外しハンドルを所定の位置にセットします。
f) ポート・リプリケータ部を取り付けてから、ThinkPad をドッキングします。
g) 手順 4 に進みます。

4 警告インジケータが点灯していないこと、またビープ音も鳴っていないことを確認します。

注: 警告インジケータが点灯している場合は、取り付けしたドライブがウルトラベイで使用できるかどうか、または IDE ドライブが 3 台以上取り付けられていないかどうか確認してください。取り付けたものが正しいドライブなら、いったんそのドライブを取り外してから、もう一度しっかりと取り付けてください。

- 5** ThinkPad の電源スイッチを入れます。
- 6** CD-ROM ドライブを取り付けたときは、ThinkPad のユーザーズ・ガイドを参照して CD-ROM ドライブ用のデバイス・ドライバーをインストールします。
- 7** IDE ドライブを取り付けたときは、70ページの『IDE セットアップ』をご覧ください。

これで ウルトラベイへのオプションの取付けは終了です。

ドライブの取外し

ウルトラベイからドライブを取り外すには、取付け手順を逆の順序で行ってください。

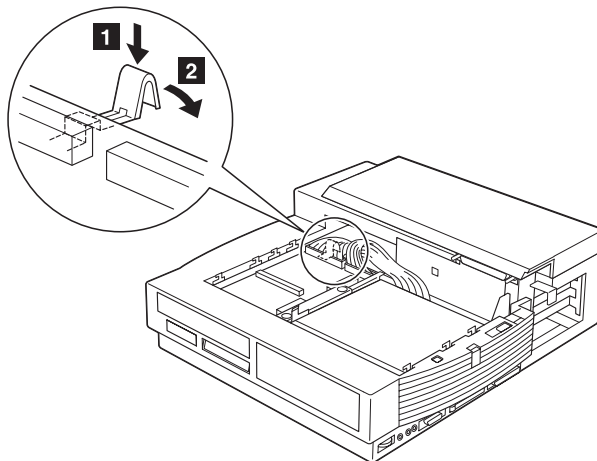
1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し

ここでは、1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースへのドライブの取付け方法と取外し方法を説明します。

ウルトラベイ・トレイの取外し

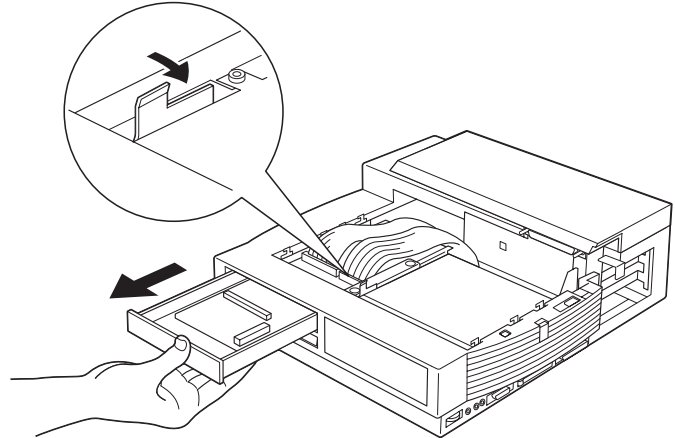
1 インチ・ハイト・ドライブを使用するには、最初にウルトラベイ・トレイを拡張ユニット部から取り外す必要があります。ウルトラベイ・トレイの取外しは、次の手順で実行します。

- 1** ウルトラベイの背面のロック 1 を下に押し、ウルトラベイ・ロック・ノブのロックを外します。ウルトラベイ・トレイを固定する必要がない場合は、ロックを右側に回転させた位置に置いておきます 2。



- 2** 拡張ユニット部をウルトラベイに接続しているケーブルを、コネクタから抜き取ります。
- 3** ウルトラベイ・トレイが止まるまで引き出します。

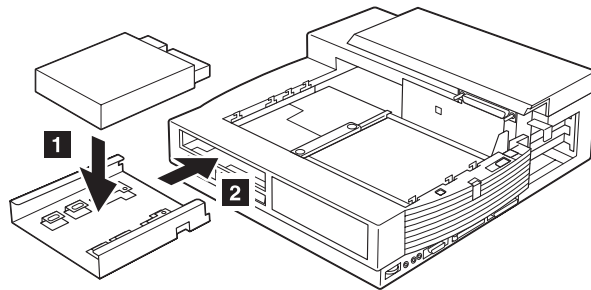
- 4** ウルトラベイ・トレイを拡張ユニット部に固定しているラッチを解放します。



- 5** ウルトラベイ・トレイを拡張ユニット部から引き出します。

ドライブの取付け

ドライブを1インチ・ハイト・ドライブ・スペースに取り付けるには、次の手順を実行してください。



- 1** ドライブをトレイの上にねじで留めます 1。
- 2** ドライブの載ったトレイを1インチ・ハイト・ドライブ・スペース 2に押し込みます。
- 3** ドライブをドライブ・スペースの後ろ側でケーブルに接続します。

4 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースの上部カバーを取り外します。

5 1 インチ・ハイト・ブランク・ベゼルを取り付けます。

6 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースの上部カバーを取り付けます。

— ケーブル・コネクタ —

ケーブル・コネクタが留めひもでまとめられている場合は、ひもをほどいてバラバラにします。

SCSI 装置の取付け

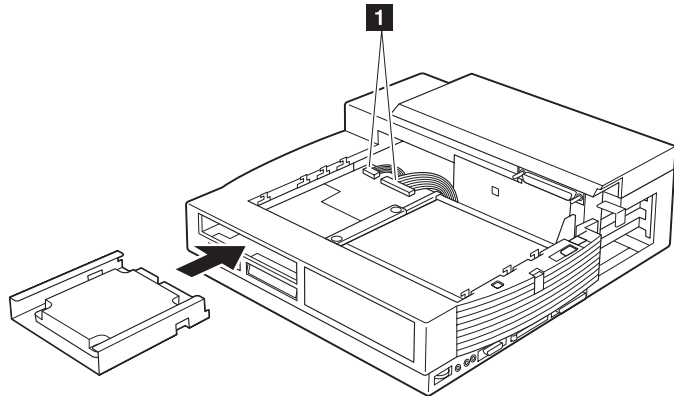
SCSI 装置を取り付けるには、次の手順を実行します。

SCSI ターミネーターが取り外されているか、または SCSI 装置で使用不可になっていることを確認します。SCSI ターミネーターの取外しについては、SCSI 装置のマニュアルをご覧ください。

SCSI 装置のオート・スタートを使用可能にします。

SCSI 装置を 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースに挿入します。ケーブルを接続できるように、装置の後部に十分な空間を残してください。

拡張ユニット部のケーブルの 2 つのコネクター 1 を、SCSI 装置の対応するコネクターに挿入します。



接続したケーブルが SCSI 装置の上にかからないように押さえながら、SCSI 装置が動かなくなってラッチで固定されるまで押し込みます。

1 インチ・ハイト・ブランク・ベゼルを取り付けます。

これで 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースへの取付けは終了です。

ドライブの取外し

1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースからドライブを取り外すには、取付け手順を逆の順序で行ってください。

— ラッチ —

ドライブを取り外す場合は、ラッチを解放する必要があります。70ページの『ラッチの解放』をご覧ください。

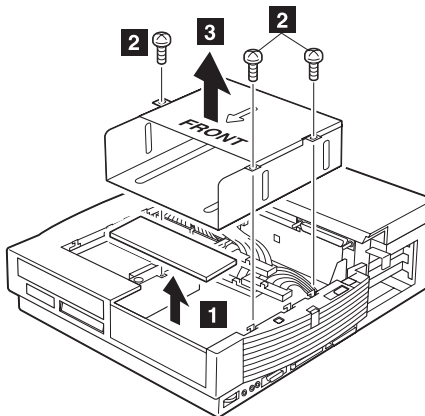
ハーフハイト・ドライブ・スペースでのドライブの取付けと取外し

ここでは、ハーフハイト・ドライブ・スペースへのドライブの取付け方法と取外し方法を説明します。

ドライブの取付け

ドライブをハーフハイト・ドライブ・スペースに取り付けるには、次の手順を実行してください。

- 1** 上部カバー 1 を取り外します。
- 2** ハーフハイト・ドライブ・トレイをハーフハイト・ドライブ・スペースに固定している 3 本のねじ 2 を取り外します。
- 3** トレイをハーフハイト・ドライブ・スペースから引き上げます 3。



- 4** トレイの前面側が前を向いていることを確認し、ドライブをトレイにねじで留めます。
- 5** ドライブを設置したトレイを、ハーフハイト・ドライブ・スペースにねじで取り付けます。

— ケーブル・コネクタ —

ケーブル・コネクタが留めひもでまとめられている場合は、ひもをほどいてバラバラにします。

目的の手順に進みます。

取り付けるドライブ	手順
IDE ドライブ	手順 5a (56ページ)。
SCSI 装置	手順 5b (58ページ)。

a) IDE ドライブを取り付けるには、次の手順を実行します。

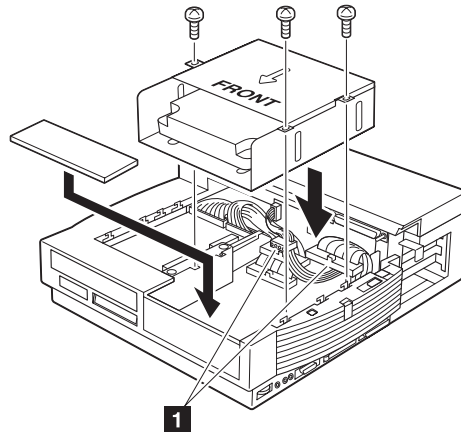
ドライブの IDE モードをケーブル選択モードに設定します。ケーブル選択モードを選ぶ手順は、IDE ドライブに付属のマニュアルの説明をご覧ください。ケーブル選択モードを選べない場合は、次の方法の 1 つを実行してください。

ウルトラベイにハード・ディスクが取り付けられていない場合は、マスター・モードに設定します。

ウルトラベイにハード・ディスクが取り付けられている場合は、スレーブ・モードに設定します。

IDE ドライブをハーフハイト・ドライブ・スペースに挿入します。ケーブルを接続できるように、ドライブの後部に十分な空間を残してください。

IDE ケーブルのコンネクター 1 を挿入します。



接続したケーブルがハーフハイト・ドライブ・スペースの上にないように押さえながら、IDE ドライブが入ったハーフハイト・ドライブ・トレイをねじで固定します。

70ページの『IDE セットアップ』をご覧ください。

上部カバーを取り付けます。

⚠注意

- i. **CD-ROM** ドライブは、レーザー・システムを使用します。本製品を正しくご使用になるために、**CD-ROM** ドライブのマニュアルを注意してお読みください。マニュアルは、後で必要になることがあるので保管しておきましょう。装置の保守が必要な場合は、正規の担当者にお任せください。
- ii. 指定されていない方法で操作ボタン、調整つまみ、またはその他の部分の操作をすると、有害な放射線を浴びる場合があります。
- iii. レーザー光線の直接の被ばくを避けるために、格納装置を開けないでください。

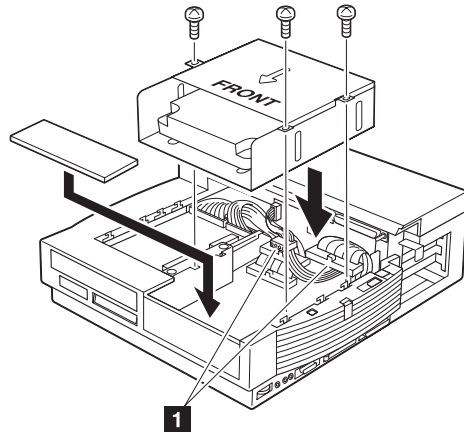
b) SCSI 装置を取り付けるには、次の手順を実行します。

SCSI ターミネーターが取り外されているか、または SCSI 装置で使用不可になっていることを確認します。SCSI ターミネーターの取外しについては、SCSI 装置のマニュアルをご覧ください。

SCSI 装置のオート・スタートを使用可能にします。

SCSI 装置をハーフハイト・ドライブ・スペースに挿入します。ケーブルを接続できるように、ドライブの後部に十分な空間を残してください。

拡張ユニット部の SCSI ケーブルのコネクター 1 を SCSI 装置の対応するコネクターに挿入します。



接続したケーブルがハーフハイト・ドライブ・スペースの上にこないように押さえながら、SCSI 装置が入ったハーフハイト・ドライブ・トレイをねじで固定します。

上部カバーを取り付けます。

これでハーフハイト・ドライブ・スペースへの取付けは終了です。

ドライブの取外し

ハーフハイト・ドライブ・スペースからドライブを取り外すには、取付け手順を逆の順序で行ってください。

PCI/ISA アダプター・カードの取付けと取外し

拡張ユニット部にはフルサイズの、16 ビット ISA バス・アダプター・カードまたは 32 ビット PCI バス・アダプター・カードを 2 セット取り付けられます。下部のスロットは ISA バス・アダプター・カード用で、上部のスロットは PCI バス・アダプター・カード用です。

さらに、拡張ユニット部には別のハーフ・サイズ 32 ビット PCI バス・アダプター・カードが取り付けられます。

すなわち、拡張ユニット部には次の PCI および ISA アダプター・カードの組合せの任意のものを取り付けられます。

- PCI アダプター・カード 3 枚
- PCI アダプター・カード 2 枚と ISA アダプター・カード 1 枚
- PCI アダプター・カード 1 枚と ISA アダプター・カード 2 枚

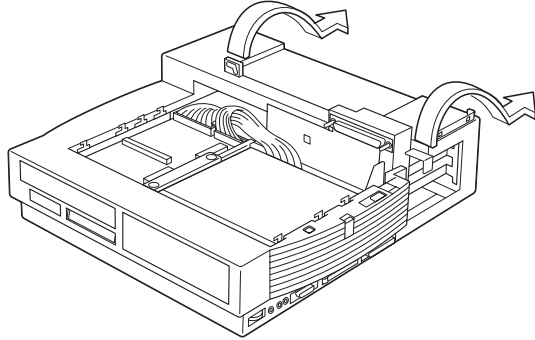
ここでは、アダプター・カードの取付け方法と取外し方法を説明します。

アダプター・カードの取付け

拡張ユニット部にアダプター・カードを取り付けるには、以下の手順を実行してください。

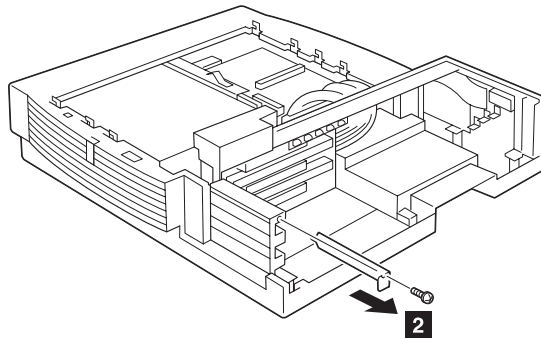
- 1** ThinkPad の電源を切り、拡張ユニット部から電源コードを抜き取りま
す。
- 2** セレクタドック・システムから ThinkPad をアンドッキングします。
- 3** セレクタドック・システムの背面のすべてのケーブルを抜き取り、アダ
プター・スロットを扱いやすくします。
- 4** MicroSaver ロックが取り付けられているときは、これをロック解除し
ます。
- 5** 機密保護キーをロック解除の位置に回します。
- 6** ポート・リプリケーター部を取り外します。

7 背面カバーを開けて取り外します。

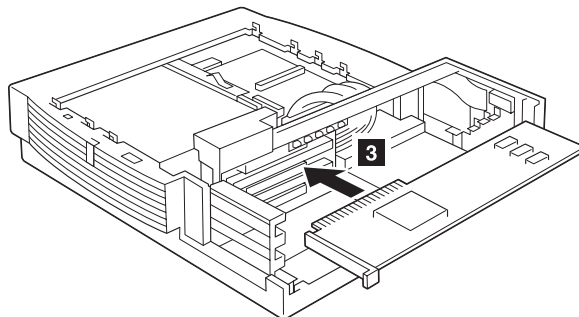


8 必要な場合は、アダプター・カードに付属の説明書に従ってアダプター・カードのスイッチやジャンパーを設定します。設定したスイッチやジャンパーの情報を、将来使用する場合のために記録しておいてください。

9 金属ブラケットを固定しているねじを取り外します。次に、金属ブラケット 2 を取り外します。

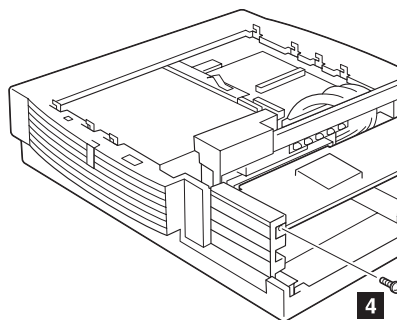


- 10** アダプター・カードの部品が付いている面を上にして端を持ち、使用するスロットに合わせます。アダプター・カード 3 を挿入します。



注: 下部のコネクターは **ISA** アダプター・カード用です。
上部のコネクターは、**PCI** アダプター・カード用です。

- 11** 金属ブラケットを留めているねじ 4 でアダプター・カードをスロットに固定します。



- 12** 背面カバーを取り付けて閉じます。
- 13** ポート・リプリケーター部を取り付けます。
- 14** 必要な場合は、MicroSaver ロックを取り付けます。
- 15** 機密保護キーをロックの位置に回します。
- 16** 取り外したケーブルと電源コードを再び取り付けます。

17 アダプター・カードをシステム構成プログラムの中に構成するために、以下の手順を実行してください。

注: 初めての場合は、ThinkPad をセレクトドック・システムにドッキングする前に、以下の手順を実行してください。

非 PNP (レガシー ISA) アダプターを取り付けた場合は、ThinkPad 機能設定プログラムを使用して、取り付けたアダプター・カードにシステム資源を割り当てます。割り当てるシステム資源は、以下のとおりです。

IRQ (ハードウェア割り込み要求) システムには IRQ が 16 ありますが、一部の IRQ はシステム用に予約されています。新しく取り付けた装置には使用されていない IRQ を割り当てます。

DMA (ダイレクト・メモリー・アクセス・チャンネル) DMA は 0 から 7 まで 8 つあります。一部の DMA はシステム用に予約されています。この資源は、大量のデータを転送するための音声カードや SCSI アダプターなどのアダプターが通常使用します。

I/O アドレス 入出力 (I/O) アドレス空間は、16 進数で 0000 から FFFF までです。各機能の I/O ポートやアダプターの I/O ポートはこのアドレスにマッピングされます。

メモリー・アドレス この領域には、BIOS ROM と、メモリー・マッピングされたアダプターの I/O 領域があります。

IRQ とメモリー・アドレスは、もっとも競合を起こしやすい資源です。たとえば、セレクトドック・システムの ISA アダプターが DMA チャンネル 1 を使用しているときは、ThinkPad のオーディオ機能 (DMA チャンネル 0 と 1 を使用) と競合を起こします。このようなアダプターの典型的な例は、Sound Blaster アダプターです。


資源の競合が起こらないように、必ず正しい値を選んで使用してください。

ThinkPad 機能設定プログラムを使用するには、使用しているオペレーティング・システムに応じて、以下の手順を実行してください。

Windows 95、OS/2 Warp、Windows V3.1、または Windows NT の場合 :

- a) **ThinkPad** フォルダーを選びます。

b) **ThinkPad** 機能設定プログラムアイコンを選びます。

c) ドッキング・アイコン  を選びます。

d) 表示されたシステム資源の情報について、すべての項目を入力します。説明が必要なときは、ヘルプ・ボタンをクリックします。

DOS の場合:

a) DOS のコマンド・プロンプトで、次のように入力します。

PS2 ?

これによって、システム資源を割り当てるために使用できるコマンドが表示されます。コマンドの詳細については、ThinkPad のユーザーズ・ガイドをご覧ください。

b) システム資源を割り当てます。

これでアダプター・カードの取付けは終了です。

続いて、オペレーティング・システムにデバイス・ドライバーをインストールするために、アダプター・カードに付属している説明書に従ってインストールを進めてください。

アダプター・カードの取外し

アダプター・カードを取り外すに、取付け手順を逆の順序で行ってください。

PC カードの取付けと取外し

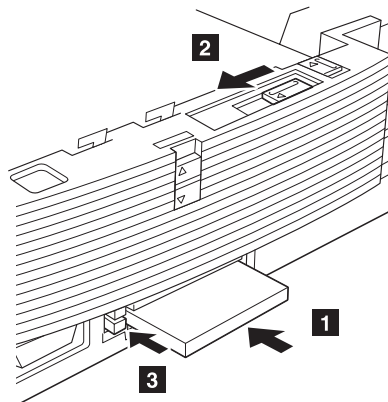
拡張ユニット部の 2 つの PCMCIA スロットには、次のどちらかの PC カードが挿入できます。

タイプ I またはタイプ II のカード 2 枚

タイプ III のカード 1 枚 (下部のスロットのみ)

PC カードの取付けまたは取外しを行うには、以下の手順を実行してください。

- 1 PC カード・ロックをロック解除位置に合わせます。
- 2 使用するスロットを決めます。タイプ III のカードは下部のスロットにだけ挿入できます。
- 3 カードをスロットに合わせ、完全に止まるまで挿入します 1。

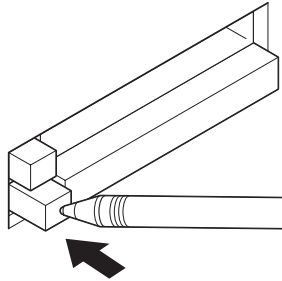


- 4 PC カード・ロックをロック位置に合わせます 2。ロック・ノブが動かない場合は、そのままにしておきます。

これで PC カードの取付けは終了です。

PC カードを取り外すには、対応するイジェクト・ボタン 3 を押します。

注: 指でボタンを押すのが難しいときは、先のとがったものを使用してください。



プラグ & プレイ機能

DOS、OS/2 Warp、Windows V3.1、Windows NT、または Windows 95 の場合

セレクトアドック・システムに取り付けた PC カードのプラグ & プレイ機能を使用するには、PC Card Director プログラムとカード用のデバイス・ドライバーをインストールします。

詳細については、ThinkPad のユーザーズ・ガイドをご覧ください。

MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方

拡張ユニット部には、ThinkPad の MIDI/ジョイスティック・ポートと機能的に同じ MIDI/ジョイスティック・ポートがあります。このポートからの MIDI 信号は、ThinkPad の MIDI コントローラーに直接つながっています。このため、使用する ThinkPad に MIDI ゲーム・ポートがない場合は、MIDI 機能は使用できません。

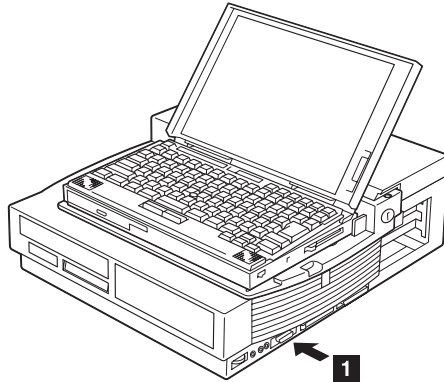
拡張ユニット部には、ジョイスティック用のゲーム・コントローラーがインストールされています。ThinkPad には、モデルによって、ゲーム・コントローラーが含まれているものといないものがありますが、ThinkPad を拡張ユニット部にドッキングすると、拡張ユニット部のゲーム・コントローラーが使用可能になります。その場合、ThinkPad にインストールされているゲーム・コントローラーは使用できなくなります。

また、Sound Blaster と互換性のある ISA アダプター・カードが取り付けられている場合、拡張ユニット部のゲーム・コントローラーはこれとシステム資源を共用しなければなりません。そのため、拡張ユニット部のゲーム・コントローラーは、省略時の設定では、拡張ユニット部のシステム・ボード上にある使用可能/使用不可ジャンパーによって、使用不可にしてあります。拡張ユニット部に接続されているジョイスティックを使用するときは、このジャンパーを使用可能に設定しなければなりません。

MIDI/ジョイスティック・ポートを使用するには、以下の手順を実行してください。

- 1 ThinkPad の電源を切り、セレクトドック・システムから電源コードを抜き取ります。

- 2** MIDI コネクターまたはジョイスティック・ケーブルをポート 1 に接続します。



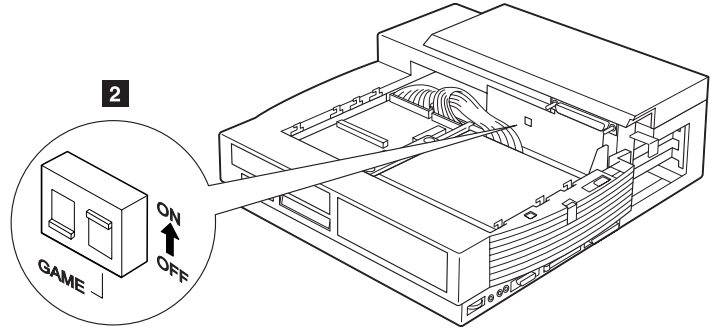
- 3** ケーブルの他端を MIDI コネクターまたはジョイスティックに接続します。
- 4** ジョイスティックを使用するときは、次の手順に進みます。使用しないときは、手順 9 (68ページ) に進みます。
- 5** Sound Blaster と互換性のある ISA アダプター・カードが取り付けられているときは、これを使用しないでください。

注: このカードをポートとして同時に使用しようとすると、ThinkPad の資源の競合問題が発生します。

カードを使用する場合は、オン/オフ・ジャンパーを OFF の位置に設定します (手順 7 (68ページ) をご覧ください)。

- 6** コールド・アンドockingによって ThinkPad と ポート・リプリケーター部をアンドockingします。27ページの『コールド・ドッキングとアンドocking』をご覧ください。

- 7** ゲーム・スイッチ 2 を探し、右側のスイッチを OFF から ON に切り替えます。



注: ゲーム・スイッチによりジョイスティックが使用可能になります。
このスイッチをオンにすると、拡張ユニット部の MIDI/ジョイスティック・ポートのジョイスティックの機能が使用できます。

- 8** ポート・リプリケーター部を取り付け、ThinkPad を再びドッキングします。27ページの『コールド・ドッキングとアンドッキング』をご覧ください。

- 9** ThinkPad の電源を入れます。

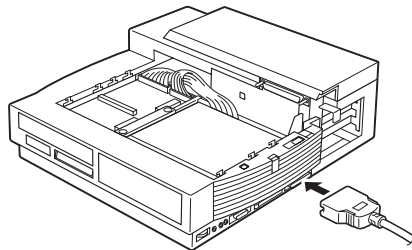
これで MIDI/ジョイスティック・ポートの接続は終了です。

外付け SCSI 装置の接続

外付け SCSI 装置を SCSI ポート・コネクタに接続できます。拡張ユニット部の SCSI コントローラーは、高速 SCSI (SCSI 2) Adaptec AIC 7850 コントローラーに適合し、SCSI 1 または SCSI 2 の仕様に準拠している外付け装置にポートを提供しています。

装置の取付けは、SCSI 装置に付属している説明書に従って行ってください。

SCSI 装置のオート・スタートを使用可能にします。



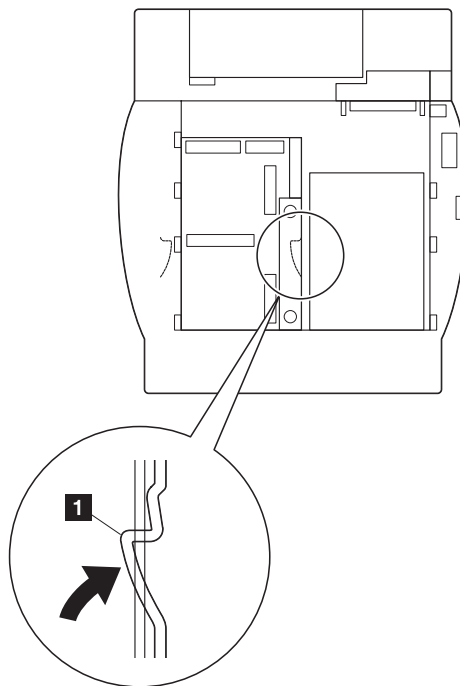
注:

1. SCSI コントローラーのターミネーターは、ユーザーがセットアップする必要はありません。SCSI 装置のデージー・チェーンの中の外付け装置では、拡張ユニット部から物理的にもっとも遠い装置でターミネーターを使用する必要があります。ターミネーターのコネクタは別途購入できます。
2. 装置を接続する SCSI ケーブルは、装置に付属しているか、または別途購入できます。
3. セレクタドック・システムの電源を入れる前に、すべての外付け SCSI 装置の電源を入れてください。
4. SCSI 装置の取付け方法の詳細は、第 6 章をご覧ください。

ラッチの解放

ラッチは、1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースに取り付けられ、挿入された記憶装置を固定します。記憶装置を取り外すときは、ラッチを解放しなければなりません。

取り付けられた記憶装置を取り外すためにラッチを解放するには、ラッチ 1 を矢印の方向に押し出します。



IDE セットアップ

IDE ドライブを取り付けたときは、以下の手順を実行して、セカンド IDE コントローラーが使用可能になっていることを確認します。

DOS の場合:

- 1 DOS のコマンド・プロンプトで、次のように入力します。
PS2 ? IDE2

これによって、IDE アダプターの状態が表示されます。


- 2 IDE アダプターが使用不可になっているときは、次のように入力します。

PS2 IDE2 Enable

これによって IDE アダプターが使用可能になります。

- 3 変更した内容を有効にするために、ThinkPad をリブートします。

OS/2 Warp、Windows V3.1、Windows NT、または Windows 95 の場合:

- 1 ThinkPad フォルダーを選びます。
- 2 ThinkPad 機能設定プログラムアイコンを選びます。
- 3 ドッキング・アイコン  を選びます。
- 4 表示された画面でセカンド IDE デバイスを使用するを選びます。
- 5 変更した内容を有効にするために、ThinkPad をリブートします。

この章では、セレクトドック・システムとポート・リプリケーター部の機密保護機能を説明します。機密保護は、機密保護キーによるロックと MicroSaver ロックによって行われます。

この章の内容:

機密保護キー・ロックの使い方	74
機密保護ロックの役割	74
キーの位置とその機能	75
機密保護ロックの仕組み	76
MicroSaver ロックを使用してセレクトドック・ドッキング・システムを 固定する	78

機密保護キー・ロックの使い方

機密保護ロックによって、ThinkPad と拡張ユニット部の中の取外し可能なすべての装置の盗難防止ができます。機密保護キーは、ロックの位置に回したときにだけ取り外しできます。ThinkPad を使用中に席を離れるときは、必ずキーを取り外してください。



機密保護ロックの役割

機密保護ロックによって次のものが保護できます。

ThinkPad	キーがロックの位置に合わせてあるときは、ThinkPad が取り外せません。
セレクトドック (ポート・リプリケーター機能)	機密保護キーがロックに位置に合わせてあるときは、ポート・リプリケーター部が取り外せません。
ThinkPad のキーボード下部の装置	キーボードの下部のウルトラベイに取り付けられているハード・ディスクや CD-ROM などの内蔵ドライブは、ThinkPad のロックによって保護されます。
ThinkPad の中の PC カード	PC カードは、機密保護キーにつながっている PC カード・ロックによって取り外しできないようになっています。カード・ロックは、使用する ThinkPad に合わせて反転して使用できます。
拡張ユニット部の中の PC カード	PC カード・ロックのスライドを動かすと、拡張ユニット部 の中の PC カードはブロックされて取り出せなくなります。
ウルトラベイ・ドライブ	ウルトラベイ機密保護ノブは、ウルトラベイ・トレイが引き出せないように保護します。
アダプター・カード	PCI/ISA バス・アダプター・カードは、MicroSaver ロックを使用するとカード・カバーが取り外せなくなり保護されます。

キーの位置とその機能

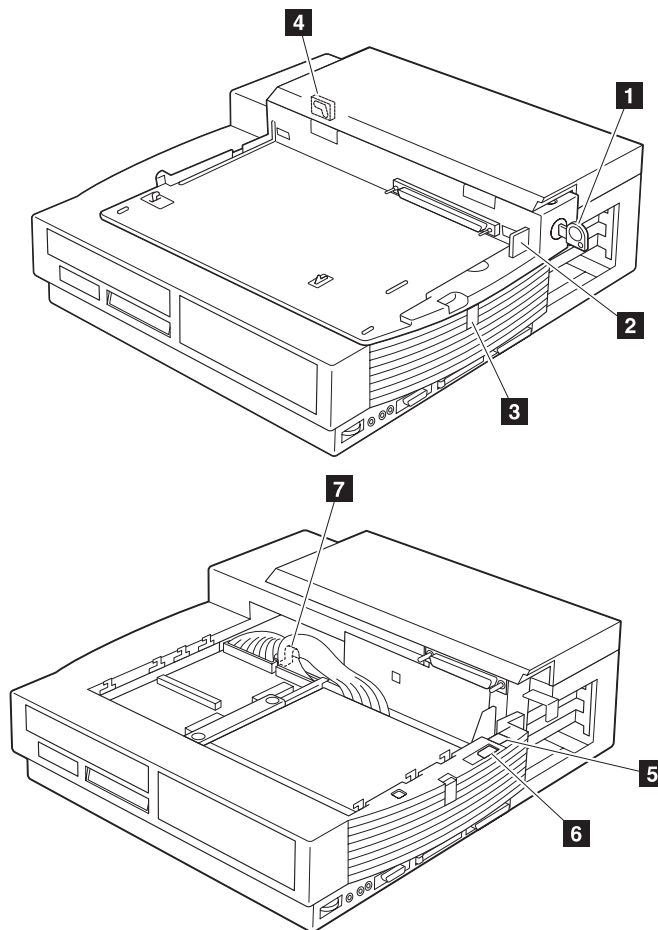
次の表に機密保護ロックのキーの位置と、対応する機能を説明します。

キーの位置	ドッキング/アン ドッキングでき るか?	装置が取り外せ るか?	ThinkPadの電 源が入れられる か? (注参照)	キーが取り外せ るか?
ロック解除 	できる	取り外せる	入れられる	取り外せない
ロック 	できない	取り外せない	入れられる	取り外せる

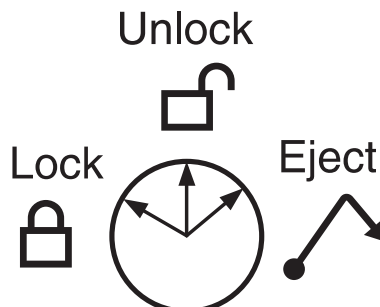
注: セレクタドック・システムに ThinkPad がドッキングしているときにキー位置をロック解除からロックに変更しても、電源の状態 (オンまたはオフ) は変わりません。

セレクタドック・システムに ThinkPad がドッキングしていないときにキー位置をロック解除からロックに変更した状態で ThinkPad をドッキングしても電源は入りません。

機密保護ロックの仕組み



機密保護ロック・キー 1 の設定位置は、ロック、ロック解除、およびジェクトの 3 箇所あります。



上の図は、セレクトドック・システムに使用されている機密保護ロックの設定位置を示しています。

- 2 ポート・リプリケーター部上の ThinkPad に取り付けられている PC カードのロック
- 5 マルチユーザー・ロック
- 6 拡張ユニット部に取り付けられている PC カードのロック
- 7 ウルトラベイ機密保護ノブ

ポート・リプリケーター部ロック 3 とポート・リプリケーター部上の MicroSaver ロック 4 は、機密保護キーの設定位置と関係ありません。これらのロックは、機密保護ロックとは別に提供される機密保護機能です。

マルチユーザー・ロックは、データの機密保護を保ちながら、複数のユーザーが拡張ユニット部を共用できるようにします。

PC カード・ロックは、カードのイジェクト・ボタンをブロックして、カードが取り出せないようにします。

MicroSaver ロックを使用してセレクトドック・ドッキング・システムを固定する

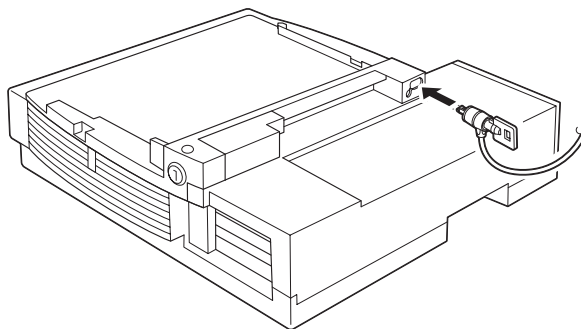
図に示すように、MicroSaver ロックを使用して セレクトドック・システムをテーブルなどに固定できます。

注

MicroSaver ロックは、別途パソコン販売店でお買い求めください。

MicroSaver ロックを使用すると、ポート・リプリケーター部だけではなく拡張ユニット部とアダプター・カバーも保護できます。

図に示すように、MicroSaver ロックを取り付けます。詳細は、ロックに付属の説明書をご覧ください。



第5章 セレクタドック・ドッキング・システムを共有する

この章では、セレクタドック・システムを複数のユーザーが共有するために必要なセットアップ手順を説明します。

この章の内容:

セレクタドック・ドッキング・システムの共有について	80
セットアップ手順	81
マルチユーザー・ロックの取外し	82

セレクトアドック・ドッキング・システムの共用について

1 台の セレクトアドック・システムを複数のユーザーが共用すると、各ユーザーは拡張ユニット部のハード・ディスク上にある同一のデータにアクセスできます。各ユーザーはセレクトアドック・システムに取り付けられているその他の装置も共用できます。

ハード・ディスクと各ユーザーの ThinkPad にパスワードを設定すると、データへの不正なアクセスが防止できます。

共用システムの特長は次のとおりです。

特定のユーザーが セレクトアドック・システムを共用できる。

セレクトアドック・システムが不正に使用されないように防止できる。

データが共用できる。

機密保護キーを借りる必要がないので、ユーザーが自分の ThinkPad を容易にドッキングやアンドッキングできる。また、システム管理者が、キーを使用しないで管理できる。

- マルチユーザー・ロックによって、機密保護キーがロックの位置に回されないように防止できる。つまり、機密保護キーが取り外せないようにできる。

ハード・ディスクのパスワード保護ができる。

- ウルトラベイ・ハード・ディスク・コネクターに取り付けられたハード・ディスク 1 台だけをパスワードによって保護する。ウルトラベイ・ハード・ディスク・コネクターに 2 台のハード・ディスクが取り付けられた場合は、後部のコネクターに取り付けられたハード・ディスクだけがパスワード保護される。

セットアップ手順の要点は、次のとおりです。

ドライブにハード・ディスク・パスワードを設定する。

セレクトアドック・システムにハード・ディスク・ドライブを取り付ける。

許可ユーザーが使用する管理者パスワードを ThinkPad に設定する。

拡張ユニット部に、追加機密保護機能のマルチユーザー・ロックを取り付ける。

以上のセットアップ手順は、マルチユーザー・グループの管理者が行わなければなりません。

セットアップ手順

共用システムをセットアップするには、管理者が以下の手順を実行してください。

- 1** 許可ユーザーが使用する各 ThinkPad に、同一の管理者パスワードを設定します。

注: パスワードは他人に知らせないでください。

- 2** 複数のユーザーが共用するハード・ディスク・ドライブを、管理者の ThinkPad に取り付けます。

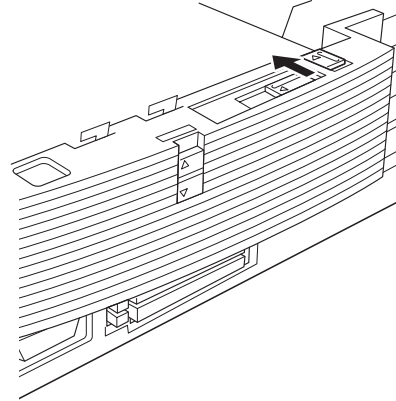
- 3** ハード・ディスクのパスワードを、管理者パスワードと同じ値に設定します。

- 4** ハード・ディスクのパスワードを設定したら、共用する拡張ユニット部にそのドライブを移動します。

- 5** マルチユーザー・ロックを拡張ユニット部に設定します。

- a) 必要に応じて PC カードを拡張ユニット部に取り付けます。取付け方法は、64ページの『PC カードの取付けと取外し』をご覧ください。
- b) 機密保護キーがロック解除の位置に合わせてあることを確認します。

c) マルチユーザー・ロックをオンに設定します。



d) ウルトラバイ機密保護ノブがロックされていることを確認します。

e) ポート・リプリケーター部を取り付けます。

f) 機密保護キーがロックの位置に回せないことを確認します。

g) ポート・リプリケーター部ロックを、ラッチがかかるまで持ち上げます。

h) MicroSaver ロックを設定して、ポート・リプリケーター部がアンドッキングされることを防止します。

以上の手順によって、自分の ThinkPad をセレクトドック・システムにドッキングしたユーザーがセレクトドック・システムを使用できるようになります。ここで各ユーザーは ThinkPad をセレクトドック・システムにコールド・ドッキングします。ユーザーは、パスワードを入力しないで共用のハード・ディスク・ドライブにアクセスできます。

これで共用システムのセットアップは終了です。

マルチユーザー・ロックの取外し

マルチユーザー・ロックを取り外すには、以下の手順を実行してください。

1 ThinkPad をアンドッキングします。

2 MicroSaver ロックが取り付けられているときは、これをロック解除します。

3 ポート・リプリケーター部のロックを止まるまで押し下げ、ポート・リプリケーター部を取り外します。

4 マルチユーザー・ロックをロック解除します。

手順 5c (82ページ) の図を参照して、手順を逆の順序で行ってください。

パスワードを使用するときのヒント

システム管理者はユーザーに管理者パスワードやハード・ディスク・パスワードを知らせないでください。

各ユーザーは、管理者パスワードやハード・ディスク・パスワードを入力しないで セレクタドック・システムを使用できます。

ユーザーがパスワードを知らなければ、誰も拡張ユニット部のドライブのハード・ディスク・パスワードをリセットしたり変更したりできません。また、ユーザーが ThinkPad の設定を変更することもできません。

しかし、ユーザーが自分専用の管理者パスワードやハード・ディスク・パスワードを使用したいときは、

1. 管理者が、共用されるドライブのハード・ディスク・パスワードを設定し、そのパスワードをすべてのユーザーに知らせます。
2. 管理者は、ユーザーの ThinkPad 用管理者パスワードは設定しません。
3. ユーザーが、共用システムにドッキングした ThinkPad の電源を入れたときに、ハード・ディスク・パスワードの入力のプロンプトが表示されます。ここでユーザーが正しいパスワードを入力します。
4. ユーザーは、自分の ThinkPad に取り付けられているその他のハード・ディスク・ドライブに、固有のパスワードを設定できます。また、固有の管理者パスワードも設定できます。

ユーザーが共用システムを使用するときは、ThinkPad をコールド・ドッキングしなければなりません。

第6章 SCSI コントローラーを使用する

この章では、SCSI 装置を SCSI アダプターに接続する方法を説明します。

重要

この章は、SCSI 装置を取り付ける前にお読みください。

関係のあるその他のマニュアルもお読みください。

SCSI 装置を取り付けるときは、各装置に SCSI ID を割り当て、ドライブ・デイジー・チェーンの最後の装置にターミネーターを取り付けなければなりません。86ページの『SCSI ポートのターミネーション（終端）』をご覧ください。

この章の内容:

SCSI ID の割当て	86
SCSI ポートのターミネーション（終端）	86
SCSI ソフトウェアのサポート	87

SCSI ID の割当て

SCSI ポートに取り付ける各装置には、固有の SCSI ID を割り当てなければなりません。ThinkPad をブートするときは、拡張ユニット部にある SCAM (SCSI Configured Automatically) プログラムが、SCAM 機能が使用できる装置に SCSI ID を自動的に割り当てます。

従来の SCSI 装置には SCAM 機能がないので、SCSI ID はジャンパーかスイッチで設定します。SCAM コマンドでは変更できません。そのため、2 台以上の装置に同一の SCSI ID が割り当てられているときには、装置の競合の問題が起こります。この問題を防止するには、ジャンパーやスイッチの設定を変更して異なる SCSI ID を割り当ててください。この実行方法については、SCSI 装置に付属のマニュアルをご覧ください。

ホスト・アダプターの省略時の SCSI ID は 7 です。

SCSI ID を手動で割り当てる必要があるときは、システムの中の最初の 2 台の SCSI ハード・ディスク・ドライブに SCSI ID 0 と 1 を割り当てます。

SCSI ポートのターミネーション (終端)

注: SCSI 装置には、外付け SCSI 装置と内蔵 SCSI 装置の 2 種類あります。ここでは、外付け SCSI 装置について説明します。内蔵 SCSI 装置には、ターミネーターは必要ありません。

デジター・チェーンの装置のうちで SCSI ポートからみて物理的に最後に接続されている外付け SCSI 装置には、ターミネーターと呼ばれる抵抗を取り付ける必要があります。SCSI ポートに接続されているその他の装置では、このターミネーターは取り外すか、非活動状態にしておく必要があります。

ほとんどの SCSI 周辺装置には、ターミネーターが組み込まれていて、活動状態にしたり、非活動状態にしたりできます。デジター・チェーンの終端にある装置だけをターミネーターで終端してください。

SCSI 装置のターミネーション

- 1 SCSI 装置の説明書を読んで、SCSI 装置のターミネーションを活動状態または非活動状態にする方法を調べます。

- 2** SCSI ポート (ケーブル) の終端の SCSI 装置にターミネーターを取り付けるか、そのターミネーターを活動状態にします。
- 3** SCSI ポートのその他の SCSI ドライブのターミネーターを取り外すか、そのターミネーターを非活動状態にします。
- 4** SCSI ケーブルが確実に接続されていることを確認します。周辺装置のジャンパーやスイッチの設定変更をしたときに、ケーブルが緩んだ可能性があります。

SCSI ソフトウェアのサポート

SCSI アダプターのセットアップ方法については、付録Bをご覧ください。

システムに問題が起こったときは、その原因は ThinkPad、ポート・リプリケータ部、拡張ユニット部、または使用しているソフトウェアにあります。問題をスムーズに判別するためには、まず問題を ThinkPad、ポート・リプリケータ部、または拡張ユニット部などのハードウェア単位に切り離します。次に、問題の原因が拡張ユニット部にあるときは、診断プログラムを実行したりトラブルシューティング・ガイドを利用したりして、問題をさらに分析し特定します。このような問題判別の実行手順が、この章の最初の部分に順を追って説明してあります

ほとんどの問題は、ThinkPad に含まれている自己診断プログラムを使用して診断し解決できます。これらの診断プログラムを実行すると、ユーザーが自分で問題を解決できる場合があります。また、問題の内容をユーザーが報告でき、問題の早期解決に役立ちます。エラー・メッセージをすべて記録し、サービスが必要なときにサービス技術員にお知らせくださるようご協力お願いします。

この章のトラブルシューティング・チャートとその他の情報は、拡張ユニット部の問題を判別し解決するために役立ちます。

重要

この章の説明は、拡張ユニット部の問題についてだけお使いください。拡張ユニット部以外の製品の問題については、その製品の説明書をご覧ください。

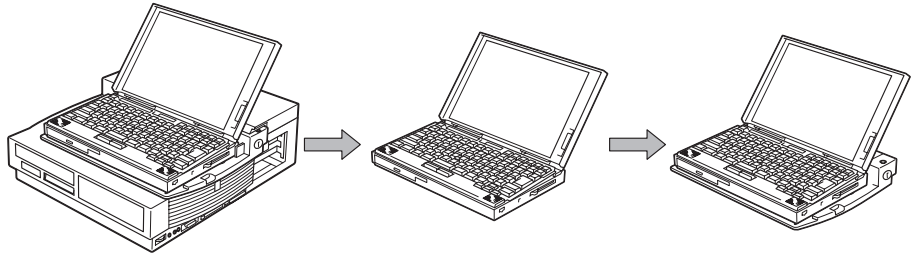
この章のテストは、**IBM** 製品のテストにだけお使いください。IBM 製品以外の製品をテストすると、正しくないエラー情報が表示されたり、ThinkPad が正しくない応答をすることがあります。それらの製品のテストは、製品に付属の説明書に従って行ってください。

この章の内容:

問題を起こしている装置の判別	91
警告インジケータ	96
ISA ThinkPad がドッキングしているとき	97
テストの実行方法	98
内蔵装置のテスト	98
SCSI サブシステム・テスト	99
トラブルシューティング・ガイド	100
目で発見できる問題	102
セットアップの問題	103
始動時の問題	104
PC カードの問題	105
ウルトラベイのドライブの問題	106
1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースの問題	107
ハーフハイト・ドライブ・スペースの問題	108
SCSI 装置の問題	109
オーディオの問題	110
Sound Blaster の問題	110
MIDI/ジョイスティック (ゲーム) ポート問題	111
アダプターの問題	112
再現できない問題	112
資源の競合の問題	113
修理を依頼するときは	115

問題を起こしている装置の判別

以下の手順によって、どのハードウェア装置が問題を起こしているかを判別します。問題を起こしている部分が、ハードウェアの損傷などのように明確なときは、100ページの『トラブルシューティング・ガイド』に進んでください。



問題を起こしている装置を判別するには、以下の手順を実行してください。

- 1 ThinkPad の電源を切ります。
- 2 ThinkPad をアンドッキングします。
- 3 必要なすべての外付け装置を ThinkPad に直接取り付けます。
- 4 可能な場合は、問題が起こったときに実行していたジョブを再実行して ThinkPad をテストします。問題が再び起こりましたか？

はい 次のものに原因があると考えられます。

ThinkPad
外付け装置
ThinkPad と外付け装置を接続するケーブル
設定、操作、またはソフトウェア

ThinkPad のユーザーズ・ガイドを読んで、問題をさらに分析してください。

いいえ ThinkPad がドッキングしているときにだけ問題が起こります。
手順 6 に進みます。

- 5 問題が起こったときのジョブを実行できない場合は、システム診断プログラムを実行します。システム診断プログラムでエラーが戻りましたか？

はい ThinkPad に原因があると考えられます。

ThinkPad のユーザーズ・ガイドを読んで、問題をさらに分析してください。

いいえ ThinkPad がドッキングしているときにだけ問題が起こります。次の手順に進んでください。

6 さらに問題個所を特定するために、ポート・リプリケーター部を拡張ユニット部から取り外します。

7 ThinkPad をポート・リプリケーター部にドッキングし、外付け装置をすべてポート・リプリケーター部に再接続します。（ポート・リプリケーター部に付属のセレクトドック（ポート・リプリケーター機能）セットアップ・ガイドをご覧ください。）

8 可能な場合は、問題が起こったときに実行していたジョブを再実行して ThinkPad をテストします。問題が再び起こりましたか？

はい ポート・リプリケーター部に原因があります。セレクトドック（ポート・リプリケーター機能）セットアップ・ガイドを読んで問題を解決してください。

いいえ 次の手順に進んでください。

問題が起こったときのジョブを実行できない場合は、次の手順に進んでください。

9 ThinkPad を拡張ユニット部にドッキングして使用しているときにだけ問題が起こります。ポート・リプリケーター部と ThinkPad を拡張ユニット部にドッキングします。（27ページの『ワールド・ドッキングとアンドッキング』をご覧ください。）電源コードを拡張ユニット部に接続します。電源はここでは入れないでください。

10 拡張ユニット部のドッキング・インジケーターが点灯しましたか？

はい 拡張ユニット部が、ThinkPad のドッキング状態を認識しました。次の手順に進んでください。

いいえ ThinkPad が正しくドッキングされていません。103ページの『セットアップの問題』に進んで問題を解決してください。

11 外付け装置の電源を入れ、次に ThinkPad の電源を入れます。

注: 電源を入れる順序は重要です。ThinkPad が POST (電源オン自己テスト) を行うときに、これらの装置に電源が入っていて作動可能であることをチェックするからです。

12 拡張ユニット部の警告インジケータが点灯または点滅しましたか?

はい ドッキングが正しく行われていません。103ページの『セットアップの問題』に進んで問題を解決してください。

いいえ 次の手順に進んでください。

13 拡張ユニット部の電源インジケータが点灯しましたか?

はい 次の手順に進んでください。

いいえ 103ページの『セットアップの問題』に進んで問題を解決してください。

14 ブートが正常に終了しましたか?

はい 次の手順に進んでください。

いいえ 104ページの『始動時の問題』に進んで問題を解決してください。

15 ウルトラベイのドライブにアクセスするときに問題がありますか?

はい 106ページの『ウルトラベイのドライブの問題』に進んで問題を解決してください。

いいえ 次の手順に進んでください。

16 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースにアクセスするときに問題がありますか?

はい 107ページの『1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースの問題』に進んで問題を解決してください。

いいえ 次の手順に進んでください。

17 ハーフハイト・ドライブ・スペースにアクセスするときに問題がありますか?

はい 108ページの『ハーフハイト・ドライブ・スペースの問題』に進んで問題を解決してください。

いいえ 次の手順に進んでください。

18 SCSI 装置にアクセスするときに問題がありますか？

はい 109ページの『SCSI 装置の問題』に進んで問題を解決してください。

いいえ 次の手順に進んでください。

19 PC カードにアクセスするときに問題がありますか？

はい 105ページの『PC カードの問題』に進んで問題を解決してください。

いいえ 次の手順に進んでください。

20 オプションのアダプターにアクセスするときに問題がありますか？

はい 112ページの『アダプターの問題』に進んで問題を解決してください。

いいえ 次の手順に進んでください。

21 MIDI/ジョイスティック・ポートにアクセスするときに問題がありますか？

はい 111ページの『MIDI/ジョイスティック（ゲーム）ポート問題』に進んで問題を解決してください。

いいえ 次の手順に進んでください。

22 オーディオ・ポートに問題がありますか？

はい 110ページの『オーディオの問題』に進んで問題を解決してください。

いいえ 次の手順に進んでください。

以上のほかにも問題があることがあります。

23 拡張ユニット部に取り付けたり接続したりしたすべての装置について、診断テスト・プログラムを実行します。98ページの『テストの実行方法』に進んでください。そのテストが終わったら、下記の次の手順に戻ってください。

24 すべてのテストがエラーなしで終了しましたか？

はい 次の手順に進んでください。

いいえ テストで問題が発見されました。問題がドライブ自身にあるか拡張ユニット部にあるかをさらに判別するために、可能な場合はドライブを ThinkPad に直接取り付けて、そのドライブを再度テストします。

ドライブに再びエラーが起こったときは、ドライブの修理を依頼してください。

ドライブにエラーが起こらなかったときは、拡張ユニット部の修理を依頼してください。

ドライブを ThinkPad に直接取り付けられないときは、拡張ユニット部とドライブの両方の修理を依頼してください。

25 システムでは、診断テスト・プログラムでは発見できない問題も起こります。その場合は、通常は ThinkPad、ポート・リプリケーター部、拡張ユニット部などのハードウェアや、拡張ユニット部に取り付けられている装置には原因がありません。原因としては、ソフトウェアのエラー、セットアップのエラー、構成の問題、サポートされていない使い方、データ・メディアの問題、または再現できないハードウェアの問題が考えられます。

100ページの『トラブルシューティング・ガイド』に進んで、起こっている問題にもっとも近い症状を探し、それに対する対処方法を実行してください。システムの問題を解決できないときは、セレクトドック・システムの修理を依頼してください。

警告インジケータ

セレクトアドック・システムは、警告インジケータとビープ音の組合せによって、ユーザーに正しくないドッキングまたはアンドッキング操作について注意を促します。

警告インジケータは、ウルトラベイに正しくないドライブが取り付けられたときも点灯します。

次の表に、警告インジケータが点灯または点滅しているときの対処方法がまとめられています。

警告	原因	対処方法
ビープ音が鳴り、インジケータが点灯している。	<ol style="list-style-type: none">1. ウルトラベイ・コネクタに、サポートされていない装置が取り付けられている。または PCI バスを持たない ThinkPad がドッキングしている。2. IDE ドライブが 3 台以上セレクトアドック・システムに取り付けられている。	<ol style="list-style-type: none">1. ウルトラベイの装置が正しく取り付けられているか、またはこのベイに適合した装置であるかを確認する。もしくは ThinkPad をアンドッキングする。ISA バス・アーキテクチャーの ThinkPad はサポートされない。2. 余分な IDE ドライブをセレクトアドック・システムから取り外す。一度に使用できる IDE ドライブは 2 台だけである
ビープ音が鳴り、インジケータが点滅する。	ThinkPad がセレクトアドック・システムを使用しているときにイジェクトの操作が行われた（機密保護キーがイジェクトの位置に回された）。（これは、DOS または Windows V3.1 のユーザーがビープ音機能をオンにしているときだけ当てはまる。）	セレクトアドック・システムに取り付けられているハード・ディスク・ドライブ上のプログラムなどのアプリケーション・プログラムを閉じた後で、再度イジェクトしてみる。

警告	原因	対処方法
ピープ音が 2 回鳴り、インジケーターが 1 回点滅する。	ホット・アンドockingまたはウォーム・アンドockingが正常に実行され、ThinkPad がイジェクトできる状態である。	ThinkPad をセレクトドック・システムからイジェクトする。

ISA ThinkPad が Docking しているとき

ここでは、Docking がサポートされていない ISA バス・アーキテクチャーの ThinkPad を Docking すると何が起こるかを説明します。

ISA バス・アーキテクチャーの ThinkPad 用コネクタと PCI バス・アーキテクチャーの ThinkPad 用コネクタの物理的特性は同じであるため、正しくない ThinkPad が Docking される可能性があります。このような問題に対して ThinkPad とセレクトドック・システムを保護するために、拡張ユニット部の警告インジケーターとピープ音が警告して知らせます。次の表に、ISA バス・アーキテクチャーの ThinkPad を Docking したときのセレクトドック・システムの反応と、ユーザーが行う対策がまとめてあります。

ThinkPad の状態 (ISA バス)	セレクトドック・システムの反応	対策
電源が入り実行中	ThinkPad の電源が即時に切られる。 警告インジケーターが点灯し、正しくない ThinkPad が Docking したことを知らせる。	ThinkPad をアンドockingする。 アンドockingすると警告インジケーターが消える。
スタンバイ状態		
サスペンド状態		
ハイパネーション状態	警告インジケーターが点灯し、正しくない ThinkPad が Docking したことを知らせる。	
電源が切っている		

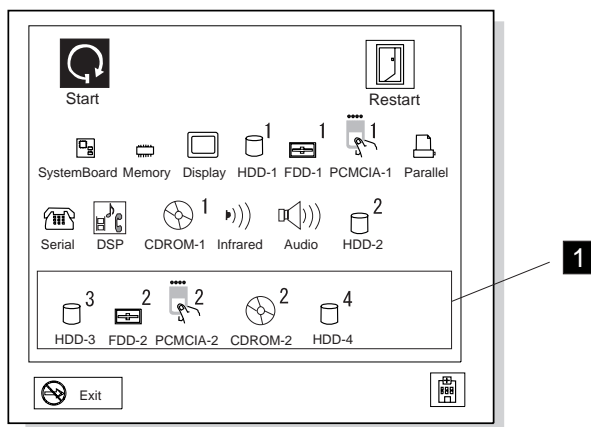
テストの実行方法

内蔵装置用の診断テスト・プログラムは、ThinkPad の Easy-Setup プログラムに含まれています。

内蔵装置のテスト

ThinkPad の Easy-Setup テスト・プログラムは、拡張ユニット部に内蔵されている装置をテストするために使用します。ここでは、拡張ユニット部に内蔵されている装置の選択方法を説明します。テストの起動方法とテスト結果の説明については、ThinkPad のユーザーズ・ガイドをご覧ください。

次の図は、テスト装置選択メニューの一例です。拡張ユニット部に内蔵されている装置は、長方形の箱 1 の中に表示されます。



拡張ユニット部でテスト可能な装置は次のものです。

- ウルトラベ이의 CD-ROM ドライブ
- ウルトラベ이의 ディスケット・ドライブ
- ウルトラベ이의 ハード・ディスク・ドライブ
- PCMCIA スロット

拡張ユニット部のロジック・ボードの大部分も、これらの装置と同時にテストされます。

エラーが発見されると、画面の中の装置アイコンの近くにエラー・コードが表示されます。エラー・コードの意味は、ThinkPad のユーザーズ・ガイドに説明されています。

エラーがドライブにあるか拡張ユニット部にあるかを判断するには、ドライブを取り外して ThinkPad に直接取り付け、そのドライブで同じテストを行います。エラーが再発するときは、そのドライブに問題があり修理が必要です。エラーが再発しないときは、拡張ユニット部に問題があります。その場合は、拡張ユニット部の修理を依頼してください。

SCSI サブシステム・テスト

セレクトアドック・ドッキング・システム・オプション・ディスケットのメニューを使用して、拡張装置、SCSI アダプター、および SCSI 装置の問題をトラブルシューティングすることができます。

セレクトアドック・システムおよび SCSI 装置を取り付けてから、診断プログラムを実行して、それらの装置が正常に動くかどうかを判定します。以下の手順を実行してください。

1. ThinkPad、セレクトアドック・システム、および外付け SCSI 装置の電源を切ります。
2. オプション・ディスケットをThinkPadのディスケット・ドライブに挿入します。
3. 接続されているすべての外付け SCSI 装置、ThinkPad、セレクトアドック・システムの電源を入れます。ロゴ画面が表示されます。数秒でメイン・メニューが表示されます。
4. **Test SCSI Subsystem**を選びます。
5. 画面の指示に従います。

トラブルシューティング・ガイド

問題の症状を調べ、次の表に示した該当するページに進んでください。

トラブルシューティング・チャート	ページ
目で発見できる問題	102
セットアップの問題	103
始動時の問題	104
PC カードの問題	105
ウルトラベイのドライブの問題	106
1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースの問題	107
ハーフハイト・ドライブ・スペースの問題	108
SCSI 装置の問題	109
オーディオの問題	110
Sound Blaster の問題	.110
MIDI/ジョイスティック (ゲーム) ・ポートの問題	111
アダプターの問題	112
再現できない問題	112
資源の競合の問題	113

重要

拡張ユニット部に原因のない問題は、すべて該当製品に付属の説明書に従って分析してください。このマニュアルでは、拡張ユニット部に固有の問題 - つまり拡張ユニット部を使用したときにだけ起こる問題 - だけを説明しています。

このトラブルシューティング・ガイドによってすべての解決方法を実行しても問題が解決しないときは、セレクトドック・システムの修理を依頼してください。

目で発見できる問題

症状	対処方法
カバーなどのハードウェアが破損している。	ハードウェアが破損しているときは、拡張ユニット部の修理を依頼してください。
ThinkPad をアンドッキングできない。	27ページの『コールド・ドッキングとアンドッキング』の手順を実行してください。セレクトドック・システムに電源が接続されていないときは、手動でアンドッキングできます。アンドッキングできないときは、セレクトドック・システムの修理を依頼してください。
警告インジケータが点灯または点滅している。	<p>問題をこれ以上大きくしないようにするために ThinkPad に不適切なドッキングやアンドッキングを見つけるのに安全保護機能を使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ドッキングされている ThinkPad がサポートされるモデルであることを確認します。ThinkPad は PCI バス・アーキテクチャーを使用しているモデルでなければなりません。使用されているアーキテクチャーが不明のときは、<i>ユーザズ・ガイド</i>をご覧ください。次の ThinkPad のモデルがサポートされています。 760E、760EL、760ED、760ELD 機密保護キーをイジェクトの位置に回したときにこのインジケータが点灯するときは、ThinkPad がアンドッキングされている場合なら異常終了するようなタスクを実行していないかどうか確認します。この手順については、30ページの『ホット/ウォーム・ドッキング/アンドッキング』をご覧ください。 ウルトラベイにドライブを取り付けたときにこのインジケータが点灯するときは、そのドライブが拡張ユニット部でサポートされているものであるか確認します。 IDE 装置が 3 台以上取り付けられていないかどうか確認します。
機密保護ロック・キーが紛失した。または予備のキーが必要になった。	注文方法については、 <i>セレクトドック (ポート・リプリケーター機能) セットアップ・ガイド</i> をご覧ください。
ThinkPad がドッキングされているのにサスペンド状態にできない。または通常の使用状態に戻れない。	カード・スロットにアダプター・カードが挿入されていないかどうかチェックします。カードが挿入された状態では、サスペンドやレジューム機能は使用できません。

セットアップの問題

症状	対処方法
ドッキング・インジケータ ーが点灯しない。	次のことを確認してください。 <ol style="list-style-type: none">1. 電源コードが、定格の電源が供給されているコンセントと拡張ユニット部に正しく挿入されている。2. ThinkPad がポート・リプリケーター部に正しくドッキングしている。27ページの『コールド・ドッキングとアンドッキング』の手順に従ってドッキングをやり直してください。
電源インジケータ ーが点灯し ない。	次のことを確認してください。 <ol style="list-style-type: none">1. ドッキング・インジケータが点灯している。点灯していないときは、「ドッキング・インジケータが点灯しない」症状の対処方法を実行してください。2. 警告インジケータが点灯していない。点灯または点滅しているときは、102ページの『目で発見できる問題』の対処方法を実行してください。3. ThinkPad の電源スイッチが正しく設定されている。4. 電流が最大限度を超えない。
警告インジケータ ーが点灯ま たは点滅している。	102ページの『目で発見できる問題』をご覧ください。
そのほかのインジケータ ーが正常に点灯または点滅し ない。	そのほかのインジケータが正常に点灯または点滅しない場合は、拡張ユニット部 の修理を依頼してください。
ThinkPad をアンドッキング できない。	102ページの『目で発見できる問題』をご覧ください。

始動時の問題

症状	対処方法
ドッキングするとオペレーティング・システムが始動しない。	<p data-bbox="544 395 862 418">次のことを確認してください。</p> <ol data-bbox="544 447 1286 869" style="list-style-type: none"><li data-bbox="544 447 1286 539">1. ブートに使用する装置の電源が入っていて作動可能になっている。ドライブに電源が直接接続されているときは、ドライブの電源を入れてから ThinkPad の電源を入れます。<li data-bbox="544 569 1286 661">2. ブートに使用する装置に対応する正しいドライブ名が起動プログラム内で使用されている。ドッキングするとドライブ名が自動的に変わることがあります。<li data-bbox="544 690 1286 748">3. 装置診断プログラムを実行したときに、ドライブに異常がない。詳細は、98ページの『テストの実行方法』をご覧ください。<li data-bbox="544 777 1286 869">4. ドッキングしたときにコンピューター資源の割当てが競合していない。競合している可能性があるときは、113ページの『資源の競合の問題』をご覧ください。

PC カードの問題

症状	対処方法
取り付けてある PC カードが使用できない。	<p data-bbox="479 395 801 418">次のことを確認してください。</p> <ol data-bbox="494 447 1229 748" style="list-style-type: none"><li data-bbox="494 447 1229 505">1. PC カードが正しく取り付けてある。64ページの『PC カードの取付けと取外し』をご覧ください。<li data-bbox="494 517 1229 644">2. PC カードを ThinkPad に直接取り付けたときは使用できる。使用できないときは、ThinkPad のユーザズ・ガイドのトラブルシューティング・ガイドに従って問題をさらに分析してください。<li data-bbox="494 656 1229 748">3. コンピュータ資源の割当てとデバイス・ドライバーのインストールが正しく行われ、PC カードが正しくセットアップされている。 <p data-bbox="479 777 1186 835">PCMCIA スロット用の診断テスト・プログラムを実行してください。98ページの『テストの実行方法』をご覧ください。</p>

ウルトラベイのドライブの問題

症状	対処方法
ウルトラベイの CD-ROM ドライブまたはディスクレット・ドライブが使用できない。	<p data-bbox="544 388 862 418">次のことを確認してください。</p> <ol data-bbox="544 440 1296 852" style="list-style-type: none"><li data-bbox="544 440 1296 539">1. ドライブがウルトラベイのコネクターにしっかりと接続されている。ドライブを取り外し、39ページの『サポートされるドライブ』の手順に従って取付けをし直してください。<li data-bbox="544 545 1296 609">2. ドライブを ThinkPad のウルトラベイに取り付けると正しく作動する。<li data-bbox="544 614 1296 678">3. ドライブのテストを行うと正しく作動する。98ページの『テストの実行方法』をご覧ください。<li data-bbox="544 683 1296 782">4. 装置を取り付けたときに、コンピューター資源の割当て、デバイス・ドライバーのインストール、およびその他のセットアップが正しく行われている。<li data-bbox="544 788 1296 852">5. ハーフハイト・ドライブ・スペースの中の装置も含め、取り付けられている IDE 装置は 2 台以下である。
ウルトラベイのハード・ディスク・ドライブが使用できない。	<p data-bbox="544 880 862 909">次のことを確認してください。</p> <ol data-bbox="544 932 1296 1274" style="list-style-type: none"><li data-bbox="544 932 1296 1031">1. ドライブがウルトラベイのコネクターにしっかりと接続されている。ドライブを取り外し、39ページの『サポートされるドライブ』の手順に従って取付けをし直してください。<li data-bbox="544 1036 1296 1100">2. ドライブを ThinkPad のウルトラベイに取り付けると正しく作動する。<li data-bbox="544 1105 1296 1170">3. ドライブのテストを行うと正しく作動する。98ページの『テストの実行方法』をご覧ください。<li data-bbox="544 1175 1296 1274">4. ハード・ディスクのパスワードが正しく設定されている。パスワードの設定方法については、ThinkPad のユーザズ・ガイドをご覧ください。

1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースの問題

症状	対処方法
1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースの SCSI 装置が使用できない。	<p data-bbox="479 392 801 418">次のことを確認してください。</p> <ol data-bbox="494 444 1229 678" style="list-style-type: none"><li data-bbox="494 444 1229 539">1. 装置が 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースのコネクタにしっかりと接続されている。装置を取り外し、52ページの『SCSI 装置の取付け』の手順に従って取付けをし直してください。<li data-bbox="494 548 1229 644">2. 装置を取り付けたときに、コンピューター資源の割当て、デバイス・ドライバーのインストール、およびその他のセットアップが正しく行われている。<li data-bbox="494 652 965 678">3. ターミネーターが使用不可になっている。

ハーフハイト・ドライブ・スペースの問題

症状	対処方法
ハーフハイト・ドライブ・スペースの IDE 装置が使用できない。	<p data-bbox="544 395 862 418">次のことを確認してください。</p> <ol data-bbox="558 447 1300 788" style="list-style-type: none"><li data-bbox="558 447 1300 539">1. 装置がハーフハイト・ドライブ・スペースのコネクタにしっかりと接続されている。装置を取り外し、手順 5a (56ページ) の手順に従って取付けをし直してください。<li data-bbox="558 552 1300 644">2. 装置を取り付けたときに、コンピューター資源の割当て、デバイス・ドライバのインストール、およびその他のセットアップが正しく行われている。<li data-bbox="558 656 1300 713">3. ウルトラベイ・トレイの装置も含め、取り付けられている IDE 装置は 2 台以下である。<li data-bbox="558 725 939 748">4. IDE 2 が使用可能になっている。<li data-bbox="558 760 982 782">5. モード選択が正しく設定されている。
ハーフハイト・ドライブ・スペースの SCSI 装置が使用できない。	<p data-bbox="544 817 862 840">次のことを確認してください。</p> <ol data-bbox="558 869 1300 1100" style="list-style-type: none"><li data-bbox="558 869 1300 961">1. 装置がハーフハイト・ドライブ・スペースのコネクタにしっかりと接続されている。装置を取り外し、手順 5b (58ページ) の手順に従って取付けをし直してください。<li data-bbox="558 973 1300 1065">2. 装置を取り付けたときに、コンピューター資源の割当て、デバイス・ドライバのインストール、およびその他のセットアップが正しく行われている。<li data-bbox="558 1078 1029 1100">3. ターミネーターが使用不可になっている。

SCSI 装置の問題

症状	対処方法
SCSI 装置が使用できない。	<p>SCSI バスに接続されている SCSI 装置（たとえば、CD-ROM ドライブやハード・ディスク・ドライブ）が見つからないというエラー・メッセージが表示されたときは、まず次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ThinkPad がドッキングしていること。 2. SCSI バス上のすべての装置にターミネーションが正しく設定されていること。 3. 外付け SCSI 装置、内蔵 SCSI 装置およびホスト・アダプターを接続するケーブルがしっかりと接続されていること。内部ケーブルのピン 1 の方向が正しいことを確認してください。接続がすべて問題ないことを確認し、また可能性のあるその他の問題を解決してもまだ問題が解消しないときは、ケーブルを取り換えてみてください。 4. CD-ROM ドライブやその他の SCSI 装置が電源に接続され、電源が入っていること。 <p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての SCSI 装置が使用できない場合 <ol style="list-style-type: none"> a) 外付け SCSI 装置については、SCSI ターミネーターが終端の装置に正しく取り付けられていることを確認します。 b) SCSI デバイス・ドライバーが正しくインストールされていることを付録Bによって確認します。 c) オプション・ディスクットに入っている拡張装置診断プログラムと「SCSI サブシステム」診断プログラムを実行します。 d) 問題のないことが明確なドライブがあれば、その良好なドライブだけを SCSI コネクタに取り付け、テストを行い結果を調べます。テストの結果、問題がないときは、拡張ユニット部の SCSI コントローラーは正常です。ドライブのいずれかに問題があると考えられます。 2. デイジー・チェーンの 1 台のドライブだけが使用できない場合 <ol style="list-style-type: none"> a) ドライブのテストを行い結果を確認します。テスト・プログラムのメッセージに従ってテストを進めます。 b) SCSI の設定が正しいことを付録Bによって確認します。
システムが SCSI 装置からブートできない。	外付け SCSI 装置からのブートはサポートされていません。内蔵 SCSI 装置からのブートだけが実行できます。

オーディオの問題

症状	対処方法
オーディオ装置が使用できない。	次のことを確認してください。 <ol style="list-style-type: none">1. オーディオ装置を ThinkPad に直接接続すると使用できる。2. オーディオ装置がこの製品でサポートされている。付録Cをご覧ください。3. 拡張ユニット部に取り付けた CD-ROM からのオーディオだけが使用できないときは、拡張ユニット部の修理を依頼してください。

Sound Blaster の問題

症状	対処方法
Sound Blaster またはこれと互換性のあるアダプター・カードが使用できない。	次のことを確認してください。 <ol style="list-style-type: none">1. MIDI/ジョイスティック（ゲーム）ポートのスイッチがオフに設定されている。Sound Blaster と MIDI/ジョイスティック（ゲーム）ポートは、資源の競合を起こすので同時には使用できません。詳細は、66ページの『MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方』をご覧ください。2. ThinkPad のゲーム・ポートも使用不可になっている。ThinkPad のユーザーズ・ガイドをご覧ください。

MIDI/ジョイスティック（ゲーム）ポート問題

症状	対処方法
ゲーム・ポートが使用できない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. ゲーム・ポートのスイッチがオンに設定されている。詳細は、66ページの『MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方』をご覧ください。2. MIDI を使用しているときにだけ問題が起こるときは、ThinkPad が MIDI ポートをサポートしているかどうか。

アダプターの問題

症状	対処方法
アダプターが使用できない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. アダプターが拡張ユニット部のアダプターのスロットに適合するように設計されている。2. 59ページの『PCI/ISA アダプター・カードの取付けと取外し』の取付け手順がすべて実行されている。3. アダプター・カードが非 PnP ISA アダプター・バスのタイプのときは、システム資源がユーティリティー・プログラムによって正しく割り当てられているか。4. ドライバー・ディスクが最新のものである。ドライバーの製造元にお問い合わせください。付属のディスクが旧式のデスクトップ・コンピューターしかサポートしない場合があります。 <p>アダプターに付属の説明書に従って、問題をさらに分析してください。</p>

再現できない問題

症状	対処方法
再現できない問題が起こる。	<p>再現性がないので分析は困難です。このような問題が拡張ユニット部で起こるときは、次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. ThinkPad が拡張ユニット部にしっかり接続されている。2. すべてのケーブルと電源コードが、セレクトドック・システムとそのオプションにしっかり接続されている。3. SCSI 装置が正しくターミネートされている。 <p>以上のことを確認しても問題が解決しないときは、問題の症状と、問題が起こったときに実行していた処理をメモし、お買い求めの販売店かサービス技術員にご連絡ください。</p>

資源の競合の問題

症状	対処方法
<p>ThinkPad をドッキングしたときに、構成した装置に割り当てたコンピューター資源が競合している可能性がある。または競合していることが明らかである。すなわち、2 つ以上の機能やアダプターが、同一の IRQ、DMA、I/O アドレス、またはメモリー・アドレスを使用している。</p>	<p>資源の競合の問題は、次のようにして分析してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 可能な場合は、資源が競合しているアダプター、PC カード、または ThinkPad 機能の設定を変更して、問題が解決するかどうか調べます。 すでに設定されている構成を変更しないで済むように、まず新しく取り付けられたアダプターの設定が変更できるか調べます。新しく取り付けられたアダプターやカードの設定が変更できないときにだけ、ThinkPad 機能といままで使用していたアダプターやカードの設定を変更します。いままで使用していたハードウェアの設定を変更したときは、対応するソフトウェア・ドライバの設定も変更が必要になることがあります。詳細は、該当するソフトウェアに付属のマニュアルをご覧ください。2. 競合を起こさない組合せができないときは、ThinkPad の装置をいくつか使用不可にして競合の問題が解決するか調べます。 たとえば、Sound Blaster アダプターが使用できるようにするには、ThinkPad のオーディオ装置を使用不可にして、DMA チャネル 1 を開放する必要があるかもしれません。 競合の問題を起こさない組合せを作るために、3 つ以上のアダプターや ThinkPad 装置の選択の変更が必要になることもあります。

問題がコンピューター資源の競合によって起こっているとは考えられないときは、次の順に調べてください。

1. ユーザーズ・ガイドを参照して、取付けが正しく行われているか確認する。
2. アダプターのマニュアルを参照して、ソフトウェア・ドライバのインストールが正しく行われているか確認する。
3. アダプター、コネクター、およびケーブルがしっかり取り付けられ接続されているか確認する。

4. 購入した販売店に問い合わせる。
5. アダプターが IBM 製のものでないときは、そのアダプターのメーカーに問い合わせる。
6. IBM サービス・センターに問い合わせる。

修理を依頼するときは

重要

修理を依頼するときは、必要に応じて、ThinkPad と機密保護キーを付けたセレクトドック・システムの両方をお送りください。

注: 保証期間中でも、製品の使用方法の誤り、事故、製品の変更、不適切な物理的環境または操作環境での使用、または不適切な保守のために起こった損傷については、有償になることがあります。

拡張ユニット部の保証サービスに関するお問い合わせは、IBM サービス・センターをお願いします。

修理を依頼する前に、拡張ユニット部に問題があることを確認してください。91ページの『問題を起こしている装置の判別』をご覧ください。

迅速に、またスムーズに修理ができるように、次のような情報をできるだけ多くお知らせください。

エラー・メッセージ

エラー・コード

エラーに再現性があるかないか

また、どのようにしたら問題が起こるか、どのような場合にエラーが起こらないか、などの情報も修理に役立ちます。

下記に、連絡先の電話番号を記入しておいてください。

付録A. セレクタドック・システムを使用するときのヒント

ThinkPad を セレクタドック・システムにドッキングまたはアンドッキングしたときは、ThinkPad の環境や構成が変わります。ドッキングとアンドッキングの両環境で ThinkPad を効率よく安全に使用するために、いくつかの点で注意が必要です。

この付録の内容:

ドライブ名	118
始動ドライブの選定	118
ディスクレット・ドライブの使用	121
DOS 用の複数 CONFIG 機能の使用	122
複数 CONFIG 機能がサポートされていないとき	122
オペレーティング・システムの使用上の注意事項	122
OS/2 Warp	122
Windows 95	123
ソケット・サービスのパラメーター	123
ゲーム・ポート用 I/O アドレス	124
イーサネット・アダプター・カード用アダプター・コネクター	124
ISA または PCI アダプター・オプション・カードの使用上の注意事項	124
サスペンドおよびレジューム機能の制約事項	125
ケーブルのラッピング	125
Windows NT の使用	125
ThinkPad とセレクタドック・ドッキング・システムの電源のオン・オフ	125
ThinkPad のバッテリー・パックの充電	126
I/O 資源 X'330' から X'333' の割当ての制約事項	126

ドライブ名

ThinkPad を セレクタドック・システムで使用するとき、ThinkPad とセレクタドック・システムのドライブに割り当てられるドライブ名が、ドッキングしているときとアンドッキングしているときとで変わることがあります。ドライブ名が変わるときには、アンドッキングしているときに正常に実行できるプログラムが、ドッキングしているときは正常に実行できないことがあります。

ドライブ名の変更によって起こる問題を予防するために、以下の手順を実行してください。

ドッキングした後、新しいドライブ名を確認する。

セレクタドック・システムのハード・ディスク・ドライブ上に 1 次パーティションを作らない。

ファイルをコピーしたり移動したりしたときは、もとのドライブとコピー先または移動先のドライブを確認する。

消去するファイルのあるドライブを確認する。

フォーマットするドライブを確認する。

プログラムのドライブ名がドッキングしたときとアンドッキングしたときとで変わる場合は、オペレーティング・システムのデスクトップにプログラムを登録しない。

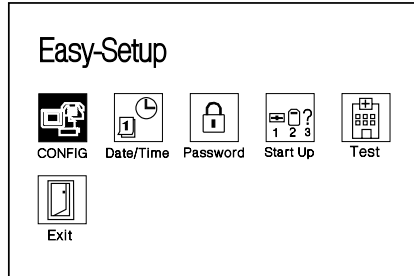
始動ドライブの選定

通常は、スタンドアロンの状態でもドッキングしている状態でも同じ始動ドライブを使用してオペレーティング・システムがブートされます。しかし、セレクタドック・システムのドライブからブートする必要があるときは、始動順位をそのように変更しなければなりません。

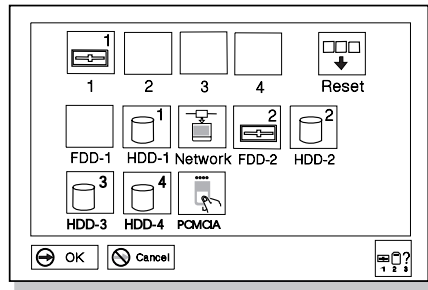
始動順位を設定するには、以下の手順を実行してください。

- 1 拡張ユニット部に追加のハード・ディスクが取り付けられていないときは、取り付けます。

- 2** F1 キーを押したまま ThinkPad の電源を入れて、Easy-Setup を起動します。



- 3** Easy-Setup のメニューで、**Start Up** を選びます。Start Up 画面が表示されます。



ThinkPad によってドライブ番号が次のように割り当てられます。

ドライブの位置	ドライブ番号
ハード・ディスク・ドライブ	
ThinkPad 内蔵のハード・ディスク・ドライブ	HDD 1
ThinkPad のウルトラベイのハード・ディスク・ドライブ	HDD 2
拡張ユニット部のウルトラベイのハード・ディスク・ドライブ	HDD 3, HDD 4
ディスク・ドライブ	
ThinkPad のウルトラベイのディスク・ドライブ	FDD 1
拡張ユニット部のウルトラベイのディスク・ドライブ、または外付けディスク・ドライブ・ポートに接続されているディスク・ドライブ	FDD 2
PC カード	
PCMCIA スロットに取り付けられているすべての PC カード	PCMCIA

注

ドライブ番号の割当て規則

- 1 より低い番号が割り当てられているハード・ディスク・ドライブが取り付けられていないときは、使用する次のドライブにその番号を割り当てます。たとえば、ThinkPad のウルトラベイにハード・ディスク・ドライブが取り付けられていないときは、拡張ユニット部のドライブの番号は HDD 2 になります。
- 2 より低い番号が割り当てられているディスク・ドライブが取り付けられていないときは、使用する次のドライブにその番号を割り当てます。たとえば、ThinkPad にディスク・ドライブが取り付けら

れていないときは、拡張ユニット部のドライブ、または外付けディスク・ドライブの番号は FDD 1 になります。

3 PC カードを始動に使用するかどうかだけを指定します。カードを複数枚挿入するときは、始動用のカードは次の順で最初のスロットに挿入しなければなりません。

- a) ThinkPad の下部のスロット
- b) ThinkPad の上部のスロット
- c) 拡張ユニット部の下部のスロット
- d) 拡張ユニット部の上部のスロット

4 **Reset** アイコンを選んでセットアップを開始します。

5 最初のドライブを選んでブートを行います。

たとえば、拡張ユニット部のウルトラベ이의先頭のハード・ディスク・ドライブから始動したいときは、**HDD 3** をクリックします。

注: この例では、ThinkPad にハード・ディスク・ドライブが 2 台取り付けられていることを前提にしています。

6 2 番目のドライブを選んでブートを行います。

たとえば、最初のドライブが何らかの理由で取り外されているときは、2 番目のドライブを使用してブートを行います。

7 同様に、必要なら 3 番目、4 番目とドライブを選んでブートを行います。

8 **OK** ボタンを選んで始動順位を保存します。

これで始動順位のセットアップは終了です。

注: セレクタドック・システムに取り付けられている SCSI ハード・ディスク・ドライブは、始動（ブート）用ドライブに選ぶことはできません。

ディスク・ドライブの使用

セレクタドック・システムには、ディスク・ドライブ用として、ウルトラベイ・コネクタと外付けディスク・ドライブ用コネクタの 2 つのコネクタが付いていますが、1 度にサポートされるディスク・ドライブは

1 台だけです。ディスケット・ドライブを 2 台接続し、そのうちの 1 台を使用すると、ディスケット上のデータが消失します。

DOS 用の複数 CONFIG 機能の使用

コールド・ドッキングのために DOS オペレーティング・システムを使用するときは、複数 CONFIG 機能を使用すると便利です。複数 CONFIG 機能を使用すると、1 つのオペレーティング・システムをドッキングとアンドッキングの両方の状態に対して効率的にブートできます。この機能を使用すると、ドッキングとアンドッキングの両方に対して別のデバイス・ドライバを設定できます。このように構成を設定しておく、オペレーティング・システムをブートするときにメニューが表示され、ブートするシステムの構成を選択できます。これによって、必要なデバイス・ドライバだけがロードされ、不要なロードに使用されるメモリーや時間が節約できます。詳細は、オペレーティング・システムのマニュアルをご覧ください。

複数 CONFIG 機能がサポートされていないとき

使用しているオペレーティング・システムが、複数 CONFIG 機能による、ロードするデバイス・ドライバの選択をサポートしていないときは、ドッキングしたときに必要になるデバイス・ドライバをすべて構成しなければなりません。この構成は、ドッキングしたときに有効になります。オペレーティング・システムをスタンドアロン状態用にブートすると、装置が使用不能であるというエラー・メッセージが表示されます。エラー・メッセージとともにプロンプトで入力が必要されたときは、**Enter** キーを押して無視してください。

オペレーティング・システムの使用上の注意事項

OS/2 Warp

セレクトアドック SCSI コネクタに接続された SCSI CD-ROM ドライブから OS/2 Warp をインストールするには、以下の手順を実行してください。

- 1** オペレーティング・システムのディスケット 1 のコピーを作成します。
 - a) ディスケット 1 と空のディスケットを、ドライブ A と B にそれぞれ挿入します。
 - b) コマンド・プロンプト画面で、次のコマンドを入力します。

```
diskcopy a: b:
```

c) **Enter** キーを押します。

- 2** セレクトドック・オプション・ディスクから AIC7870.ADD をコピーしたディスク 1 のルート・ディレクトリーにコピーします。ルート・ディレクトリーは、ディスクの先頭のディレクトリーです。AIC7870.ADD は、コピーしたディスク 1 に入っているデバイス・ドライバーのバージョンをすべて上書きします。
- 3** インストール・ディスクをドライブ A に挿入してシステムを再起動し、インストールを開始します。ディスク 1 を挿入するようにプロンプトで要求されたら、作成したコピーを挿入します。
- 4** *OS/2 Warp ユーザーズ・ガイド*の説明に従って、OS/2 Warp をインストールします。

Windows 95

Windows 95 に付属する SCSI デバイス・ドライバーは、サスペンドとレジューム機能をサポートしません。この状態で SCSI 装置を使用する場合、以下の手順に従って、サスペンドとハイバネーション機能を使用不能にしなければなりません。

- 1** **ThinkPad** 機能設定プログラム・フォルダーを開いて、拡張ユニット部アイコンをクリックします。
- 2** **Suspend/hibernate while docked** が選ばれている場合は、これを選択解除します。
- 3** **ThinkPad** 機能設定プログラムを閉じます。

ソケット・サービスのパラメーター

PC カードをセレクトドック・システムのPC カード・スロットに装着してポインター・イネーブラーを使用するときは、ソケット・サービス・パラメーターとして、"IG0=Y" よりも "IG1=Y"を使用することをお勧めします。

ゲーム・ポート用 I/O アドレス

ゲーム・ポート用 I/O アドレスは、アドレス X'0201' に割り当てられます。
このアドレスは変更できません。

イーサネット・アダプター・カード用アダプター・コネクタ

次に示すイーサネット・オプション・アダプター・カードの 1 つを拡張ユニット部にインストールして使用する場合、

3Com EtherLink III
SMC EtherCard Elite Ultra LAN アダプター
Novell NE200plus ISA イーサネット・アダプター

ケーブルをデジター・チェーン（シリアル接続）に接続するときは、次のアダプター・コネクタの 1 つを使用しなければなりません。

AMP 社製 P/N 329517
HIROSE 社製 P/N UG-306/U

アダプター・コネクタをアダプター・カード・コネクタに接続します。次に、T 字型イーサネット・ケーブルをアダプター・コネクタに接続します。

ISA または PCI アダプター・オプション・カードの使用上の注意事項

ISA または PCI アダプター・オプション・カードを購入する場合は、カードの互換性に注意します。

IBM セレクタドック（拡張ユニット機能）は、ThinkPad が接続されているときに ISA バス用の REFRESH 信号をサポートしないことがあります。REFRESH 信号がサポートされない場合は、次に示す ISA アダプター・カードはサポートされません。

IBM Multi Port Card (部品番号 00F5529)
IBM Multi Port 2 Card (部品番号 33F8791)
DRAM メモリー・カード
バスが使用されているかどうかを判定するために REFRESH 信号を使用する ISA カード

クロック・カウンターとして REFRESH 信号を使用する ISA カード

サスペンドおよびレジューム機能の制約事項

DOS または Windows V3.1 を使用する場合、ASPI8IBM.SYS (SCSI) ドライバーがロードされる時はサスペンドおよびレジューム機能がサポートされません。

Windows 95 を使用する場合、Windows 95 が AIC-7850 (SCSI) ドライバーをロードし、デバイス・マネージャーがこれを使用可能にする(チェックボックスが選ばれているとき)と、サスペンドおよびレジューム機能はサポートされません。

サスペンドおよびレジューム機能は、アダプター・カードがカード・スロットに挿入されているとサポートされません。

ケーブルのラッピング

AC アダプターやセレクトアドック (ポート・リプリケーター機能) から出ているケーブルを拡張ユニット部の後ろで巻き付けておくことができます。

Windows NT の使用

Windows NT のサポートについては、ユーザズ・ガイドをご覧ください。

ThinkPad とセレクトアドック・ドッキング・システムの電源のオン・オフ

ThinkPad の電源は、セレクトアドック・システムにドッキングしているときも ThinkPad の電源スイッチで入れたり切ったりします。拡張ユニット部には電源スイッチはありません。

ThinkPad をドッキングして使用するときは、電源コードを拡張ユニット部に接続しなければなりません。バッテリー・パックの電力だけでは、ドッキングしている ThinkPad を使用できません。

ThinkPad のバッテリー・パックの充電

セレクトドック・システムにドッキングしている ThinkPad の電源スイッチが入っていないときに、バッテリー・パックが充電されます。電源スイッチが入れてあるときは、ThinkPad の電力管理方法によって異なりますが、ThinkPad の消費電力が小さいときにだけ充電されます。

I/O 資源 X'330' から X'333' の割当ての制約事項

ThinkPad モデル 9547 をドッキングした 拡張ユニット部 に取り付けられているアダプター・カードに、I/O資源 X'330' から X'333' を割り当てる場合、ThinkPad ユーティリティを使用して ESS 機能（オーディオ）を使用不能にしなければなりません。

付録B. SCSI ソフトウェアを使用する

この付録では、拡張ユニット部に取り付けた SCSI 装置の構成情報を、Adaptec EZ-SCSI を使用して設定する方法を説明します。EZ-SCSI は、SCSI 構成を分析し、アプリケーション・プログラムとデバイス・ドライバをハード・ディスクにコピーし、構成ファイルを自動的に設定します。EZ-SCSI をインストールすると、ThinkPad ですべての SCSI 機能がすぐに使用できるようになります。

次のことについて以下に説明します。

Windows または DOS 用に Adaptec EZ-SCSI をインストールする方法

ThinkPad のハードウェア構成が変わったときに EZ-SCSI を再インストールする方法

EZ-SCSI のフォーマット・ユーティリティーの使用方法

ThinkPad と周辺装置のトラブルシューティング

Adaptec EZ-SCSI は、SCSI ホスト・アダプターと、それに接続されている装置に対して自動的に ThinkPad の構成情報を設定します。また EZ-SCSI は、アプリケーション・プログラムとデバイス・ドライバを ThinkPad のハード・ディスク・ドライブにコピーします。DOS 用の EZ-SCSI と Windows 用の EZ-SCSI の、両方の構成情報の設定手順とインストール手順を説明します。ほとんどの場合、これらの画面で提案される省略時値を使用して、お手持の ThinkPad と SCSI 装置の構成情報は正しく設定されます。EZ-SCSI は、SCSI の性能が十分に利用できるように ThinkPad を設定します。

セレクトアドック・オプション・ディスケットには、DOS 用バージョンと Windows 用バージョンの両方のプログラムが入っています。

お手持の ThinkPad に Microsoft Windows V3.1 がインストールされている場合は、130ページの『Windows 用 EZ-SCSI のインストール』の説明に従ってください。

お手持の ThinkPad が Windows ではなく DOS を使用している場合は、131ページの『DOS 用 EZ-SCSI のインストール』の説明に従ってください。

注

1. DOS と Windows 以外のオペレーティング・システムを使用している場合は、Adaptec AHA-2943 アダプター用のドライバーをインストールしてください。
2. セレクタドック・オプション・ディスクットのファイルは圧縮されています。DOS COPY コマンドを使用してこれらのファイルを ThinkPad にインストールしないでください。(EZ-SCSI をインストールすると、これらのファイルは自動的に圧縮が解除されます。)

この付録の内容:

Windows 用 EZ-SCSI のインストール	130
DOS 用 EZ-SCSI のインストール	131
Adaptec EZ-SCSI の再インストール	133
詳しいオンライン情報の表示	133
README.TXT ファイル (DOS および Windows)	133
Adaptec SCSI 接続機器一覧 (Windows のみ)	133
フォーマット・ユーティリティー	134
SCSIFMT	134
コマンド行オプション	134
SCSIFMT の実行	134
AFDISK	137
AFDISK の実行	138

Windows 用 EZ-SCSI のインストール

Windows 用の EZ-SCSI を使用すると、SCSI 装置を効率的に作動させる Adaptec SCSI デバイス・ドライバと、ASPI (Advanced SCSI Programming Interface) マネージャーにアクセスできます。また、Windows 用の EZ-SCSI には、この付録の後半で説明する多数のアプリケーション・プログラムも含まれています。Windows 用の Adaptec EZ-SCSI をインストールするには、ThinkPad を拡張ユニット部にドッキングしてから、以下の手順を実行してください。

- 1** Windows を始動します。
- 2** セレクタドック・オプション・ディスクをディスク・ドライブに挿入します。
- 3** プログラム・マネージャー・メニュー・バーで、アイコン(**F**)をクリックし、ファイル名を指定して実行(**R**)を選びます。ダイアログ・ボックスが表示されたら、A ドライブを使用している場合は a:¥setup、B ドライブを使用している場合は b:¥setup と入力します。
- 4** **OK** ボタンをクリックします。メッセージが表示され、Adaptec EZ-SCSI がメモリーにロードされます。
- 5** **Adaptec EZ-SCSI** のインストールをクリックしてインストールを続行します。

ヘルプ情報を表示するには、どの画面からでもヘルプ(**H**)をクリックしてください。ヘルプ・ウィンドウを閉じるには、ファイル(**F**)を選んでからヘルプの終了(**X**)を選ぶか、そのヘルプ・ウィンドウの左上隅のコントロール・メニュー・ボックスをダブルクリックします。

- 6** 画面の指示に従います。続行、インストール、または **OK** ボタンをクリックして、インストールを続行し、EZ-SCSI の省略時値を受け入れます。

すべての省略時値を受け入れた場合、EZ-SCSI は次のことを実行します。

ファイルを圧縮解除し、C:¥SCSI ディレクトリーにコピーします。(このディレクトリーがないときは、新たに作成します。)

ThinkPad の構成ファイル (AUTOEXEC.BAT または CONFIG.SYS またはこれらの両方) に、ThinkPad を始動したときに必要なデバイス・ドライバーをロードするコマンド行を追加します。

別のディレクトリーにファイルをコピーしたり、構成ファイルの設定を変更したりする場合は、画面の指示に従います。

EZ-SCSI の最後の画面にはボタンが 3 つあります。

ThinkPad を再始動して、新しくインストールした EZ-SCSI デバイス・ドライバーを有効にするには、**リブート** をクリックします。

EZ-SCSI を終了し、ThinkPad を再始動しないで Windows で作業を続けるには、**Windows に戻る** をクリックします。新しく設定した構成を有効にするには、後で再始動する必要があります。

README.TXT ファイルを表示するには、**README を読む** をクリックします。

ThinkPad を再始動する前または再始動した後で Windows に戻ると、Adaptec SCSI グループが表示されています。ここには、EZ-SCSI アプリケーションのアイコンと、情報ファイルのアイコンが入っています。

DOS 用 EZ-SCSI のインストール

DOS 用の EZ-SCSI を使用すると、ThinkPad が Adaptec SCSI デバイス・ドライバーと ASPI マネージャーにアクセスできます。また、このプログラムには、いくつかのフォーマット・ユーティリティとオーディオの CD プレーヤー・アプリケーションも含まれています。

注

DOS 用の Adaptec EZ-SCSI は、Windows アプリケーションや Windows 用 ASPI はインストールしません。お手持の ThinkPad に Microsoft Windows V3.1 がインストールされている場合は、130ページの『Windows 用 EZ-SCSI のインストール』の説明に従ってください。

ThinkPad をドッキングしてから、以下の手順を実行して DOS 用の Adaptec EZ-SCSI をインストールします。

- 1 セレクタドック・オプション・ディスクレットを ThinkPad のディスクレット・ドライブに挿入します。
- 2 DOS のプロンプトで、ドライブ名をそのディスクレットを挿入したドライブ名 (A または B) に変更します。
- 3 dosinst と入力して **Enter** キーを押します。メッセージが表示され、Adaptec EZ-SCSI がメモリーにロードされます。
- 4 最初の EZ-SCSI 画面が表示されたら、そのテキストをよく読みます。どの画面でも **F1** キーを押してヘルプ・テキストを表示できます。(ヘルプ画面を終了するには **Esc** キーを押してください。)
- 5 **Enter** キーを押してインストールを続行します。
- 6 画面の指示に従います。どの画面でも、EZ-SCSI の省略時値を受け入れるには **Enter** キーを押します。(EZ-SCSI がシステム構成ファイルの変更を始めた後で続行するには、**Esc** キーを押してください。)

すべての省略時値を受け入れた場合、EZ-SCSI は次のことを実行します。

ディスクレットのファイルを圧縮解除し、C:\SCSI ディレクトリーにコピーします。(このディレクトリーがないときは、新たに作成します。)

ThinkPad の構成ファイル (AUTOEXEC.BAT または CONFIG.SYS またはこれらの両方) に、必要なデバイス・ドライバーを ThinkPad の始動時にメモリーにロードするコマンド行を追加します。

別のディレクトリーにファイルをコピーしたり、構成ファイルの設定を変更したりする場合は、画面の指示に従います。ヘルプ情報を表示するには、どの画面でも **F1** キーを押してください。

- 7 最後の画面で、システムに Adaptec EZ-SCSI はインストールされました。とメッセージが表示されたら、**Enter** キーまたは **Esc** キーを押して EZ-SCSI を終了します。続いて ThinkPad を再始動します。

Adaptec EZ-SCSI の再インストール

ThinkPad の SCSI ハードウェア構成を変更したときは、Adaptec EZ-SCSI を再インストールしなければなりません。これによって EZ-SCSI が構成ファイルを更新し、適切なデバイス・ドライバーとその他のファイルがメモリーにロードされるようになります。

たとえば、CD-ROM ドライブを SCSI ポートに接続してから EZ-SCSI を再インストールすると、CD-ROM デバイス・ドライバーが構成ファイルに追加され、適切なドライブ名がその新しい装置に割り当てられます。

EZ-SCSI を再インストールするには、この付録の前の部分の DOS または Windows 用の実行手順に従ってください。

詳しいオンライン情報の表示

EZ-SCSI の機能と接続されている SCSI 装置についてよりよく理解できるように、Adaptec EZ-SCSI にはオンライン情報が含まれています。これらのアプリケーションを以下に簡単に説明します。

Windows 環境では、Adaptec SCSI グループの中のアイコンをダブルクリックして、これらのアプリケーションやファイルを表示できます。

README.TXT ファイル (DOS および Windows)

README.TXT ファイルには、EZ-SCSI の新しい機能、CD-ROM ドライブのサポート、およびその他の情報が含まれています。DOS 環境では、任意のテキスト・エディターを使用してファイルを表示できます。Windows 環境では、Adaptec SCSI グループの中でそのアイコンをダブルクリックします。

Adaptec SCSI 接続機器一覧 (Windows のみ)

Adaptec SCSI 接続機器一覧は、システムの SCSI 装置についての情報を表示します。装置を表すアイコンをダブルクリックすると、サポートされている機能、メーカー、モデル番号、記憶容量などについての情報を表示できます。Adaptec SCSI 接続機器一覧を利用して、取外し可能媒体ドライブの媒体をロックしたり、ロック解除したり、イジェクトしたりすることができます。

Adaptec SCSI 接続機器一覧にはオンライン・ヘルプがあり、製品情報の見方を説明しています。

フォーマット・ユーティリティー

Adaptec EZ-SCSI には、SCSIFMT と AFDISK の 2 つのフォーマット・ユーティリティーが含まれています。これらのユーティリティーは、DOS または Windows 用の EZ-SCSI をインストールするとハード・ディスクにコピーされます。

SCSIFMT

SCSIFMT は、SCSI ハード・ディスク、取外し可能媒体、ディスク・ドライブ、および光磁気ディスク・ドライブ用のフォーマット・ユーティリティーです。ディスク・ドライブにデータを格納する前に、SCSIFMT でディスク・ドライブをスキャンして損傷を調べることもできます。

コマンド行オプション

DOS のプロンプトから SCSIFMT を起動するときに、次のコマンド行オプションを使用して、2 つ以上の論理ユニットをサポートする SCSI ディスク・ドライブのフォーマットを行うことができます。

```
scsifmt /L
```

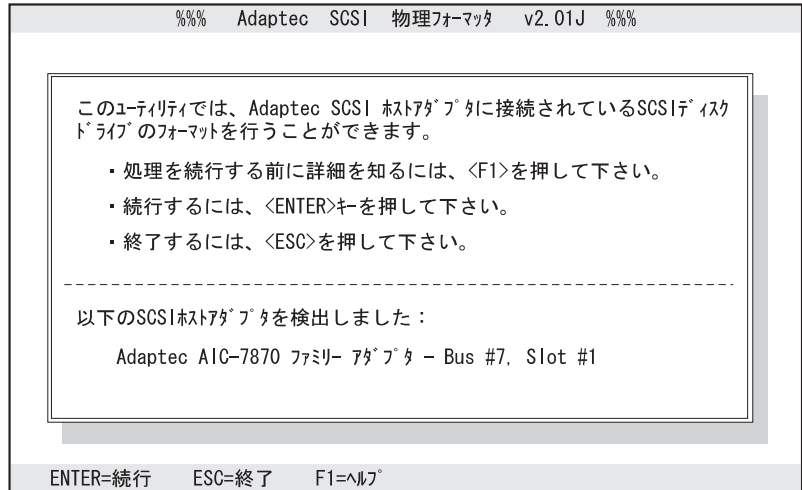
SCSIFMT の実行

SCSIFMT を実行する前に、フォーマットしたいディスク・ドライブがホスト・アダプターに接続されていて、電源が入っていることを確認します。取外し可能媒体をフォーマットする場合は、それがディスク・ドライブに挿入されていることを確認します。

SCSIFMT を実行する前に、Windows を終了させなければなりません。このユーティリティーは、Windows MS-DOS のプロンプトからは実行できません。

SCSIFMT 画面についてのオンライン・ヘルプ情報を表示するには、**F1** キーを押します。ヘルプ画面を終了するには **Esc** キーを押します。

- 1 ディレクトリーを SCSIFMT.EXE が存在するディレクトリー (省略時のディレクトリーは C:¥SCSI) に変更し、scsifmt と入力してプログラムを起動します。次の画面が表示されます。



SCSIFMT は、ThinkPad をスキャンして Adaptec SCSI ホスト・アダプターを探し、画面の一番下にホスト・アダプターの情報を表示します。上の画面では、SCSIFMT は Bus #7、Slot #1 に AIC-7870 ファミリー・アダプターを検出しました。

- 2 Enter キーを押して続行します。(F1 キーを押してヘルプ画面を見たり、Esc キーを押して SCSIFMT を終了したりすることもできます。)

次に、SCSIFMT は取り付けられている SCSI 装置について次の図に示すような情報を表示します。



3 カーソル上方向移動キーまたは下方向移動キー (↑ または ↓) を使用してディスク・ドライブを選び、**Enter** キーを押します。

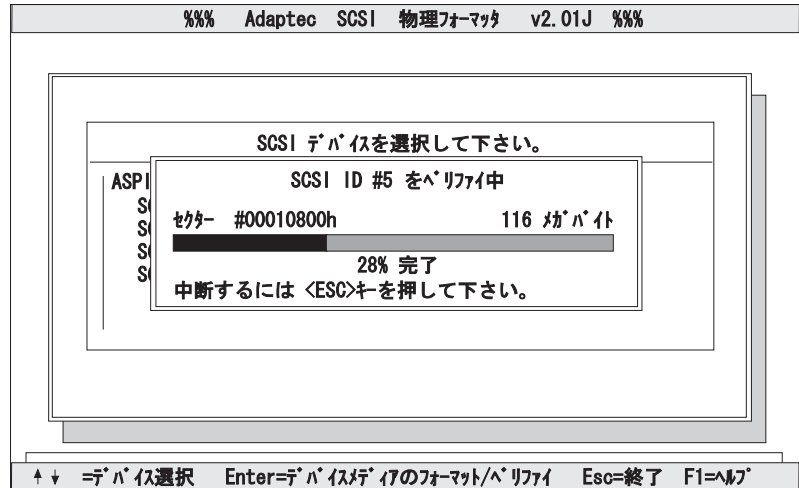
4 次の画面が表示されたら、フォーマット (ディスク・ドライブをフォーマットする) を選ぶか、ベリファイ (ディスク・ドライブの損傷をスキャンする) を選んで **Enter** キーを押します。

重要:

物理フォーマットはディスクからすべてのデータを消去します。フォーマットする前に、そのディスクにある重要なデータはバックアップを取ってください。

5 フォーマットを選んだときは、そのディスクをフォーマットしたいことを確認します (またはフォーマット・オプションの実行を中止します)。SCSIFMT がディスク装置をフォーマットしている間待ちます。大容量のディスク・ドライブでは長時間かかる場合があります。

ベリファイを選んだ場合は、ディスク媒体の損傷をスキャンしたいことを確認します（またはベリファイ・オプションの実行を中止します）。次のような画面が表示されます。



Esc キーを押せばいつでもこの処理を中止できます。中止してもディスクを損傷することはありません。ディスク全体の損傷をスキャンする前に処理を中止するだけです。

SCSIFMT がディスクの損傷箇所を発見したときは、その損傷についての情報が表示されます。これによって、ディスク・ドライブ上の不良ブロックの割当てを外し、データが不良ブロックに格納されないようになります。

- 必要に応じて、手順 3、4、および 5 を繰り返し、他のディスク・ドライブをフォーマットまたはベリファイします。処理を終えたら、**Esc** キーを押して SCSIFMT を終了します。

AFDISK

AFDISK は、SCSI ハード・ディスク、取外し可能媒体、および光磁気ディスク・ドライブ用のフォーマット・ユーティリティです。AFDISK を使用して次のことができます。

SCSI ハード・ディスク・ドライブをフォーマットする。

取外し可能媒体を、標準ハード・ディスク・フォーマット、OS/2 ディスケット・フォーマット、または DOS/V フォーマットにフォーマットする。

区画を追加する。または、DOS FDISK ユーティリティで作成された区画を削除する。

非 DOS 区画を削除する。

ホスト・アダプター BIOS (Basic Input/Output System) によって管理されていない SCSI ディスク・ドライブに対して区画を作成するには、DOS の FDISK ユーティリティではなく AFDISK を使用してください。

ホスト・アダプター BIOS によって管理されている SCSI ディスク・ドライブをフォーマットまたは区画作成するには、AFDISK ではなく DOS の FDISK ユーティリティを使用してください。

AFDISK によって作成した区画は、ThinkPad をブートしたときに ASPIDISK ドライバーでアクセスできます。AFDISK によって作成した区画は、DOS 区画と互換性があります。

AFDISK でディスク・ドライブに区画を作成した後は、それを使用する前に、その装置で DOS FORMAT ユーティリティも実行する必要があります。こうすると、そのディスク媒体が損傷していないことを確認できます。

AFDISK の実行

AFDISK を実行する前に、フォーマットまたは区画を作成したいディスク・ドライブがホスト・アダプターに接続されていて、電源が入っていることを確認してください。取外し可能媒体ドライブがあるときは、取外し可能媒体がそのドライブに挿入されていることを確認してください。

AFDISK を実行する前に Windows を完全に終了しなければなりません。このユーティリティは、Windows の MS-DOS のプロンプトからは実行できません。

AFDISK 画面についてのオンライン・ヘルプ情報を表示するには、**F1** キーを押します。ヘルプ画面を終了するには **Esc** キーを押します。

- 1 ディレクトリーを AFDISK.EXE が存在するディレクトリー (省略時のディレクトリーは C:\SCSI) に変更し、afdisk と入力してプログラムを起動します。次の画面が表示されます。



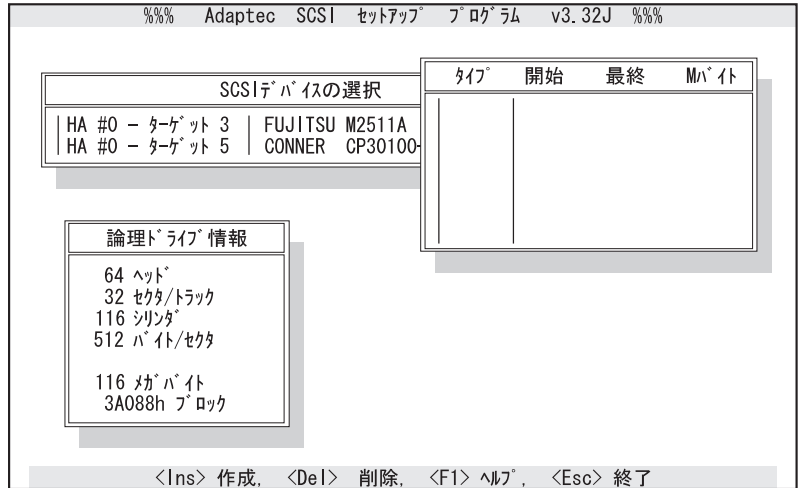
AFDISK は、ホスト・アダプター BIOS によって制御されている取外し可能媒体ドライブと SCSI 装置を含む、取り付けられているすべての SCSI ディスク・ドライブを一覧表示します。それぞれの装置について、左から右に次の情報が表示されます。

HA # ホスト・アダプター番号。ホスト・アダプターが 1 つしかないときは、この番号はゼロです。

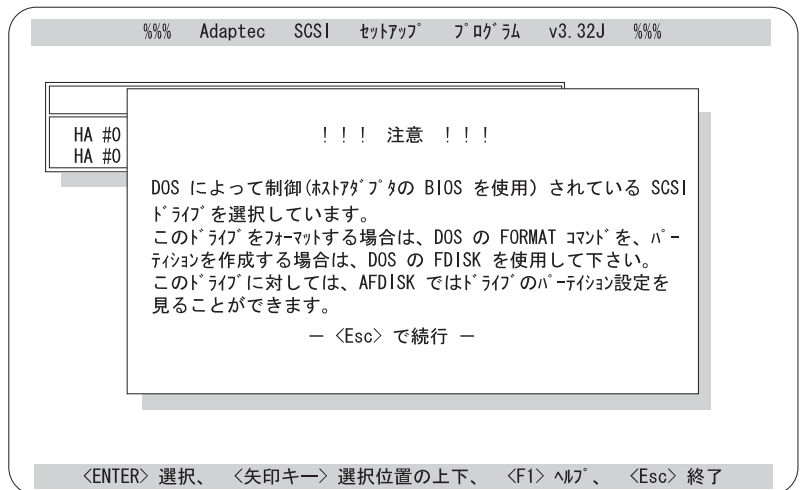
ターゲット # その装置の SCSI ID 番号。

デバイス名 その SCSI 装置のベンダー名とプロダクト ID。

- 2 カーソル上方向移動キーまたは下方向移動キー（↑または↓）を使用してディスク・ドライブを選び、**Enter** キーを押します。ディスクがフォーマットされる場合は、次のような画面が表示されます。



選んだ装置がホスト・アダプター BIOS によって制御されているときは、AFDISK は次のような画面を表示します。この装置の情報は表示はできますが、AFDISK でその区画を変更することはできません。



そのディスク媒体がフォーマットされていないときは、区画を作成する前にそのディスク媒体をフォーマットしなければなりません。その場合

は画面の指示に従ってください。使用可能なフォーマット・オプションを説明している AFDISK のオンライン・ヘルプをご覧ください。

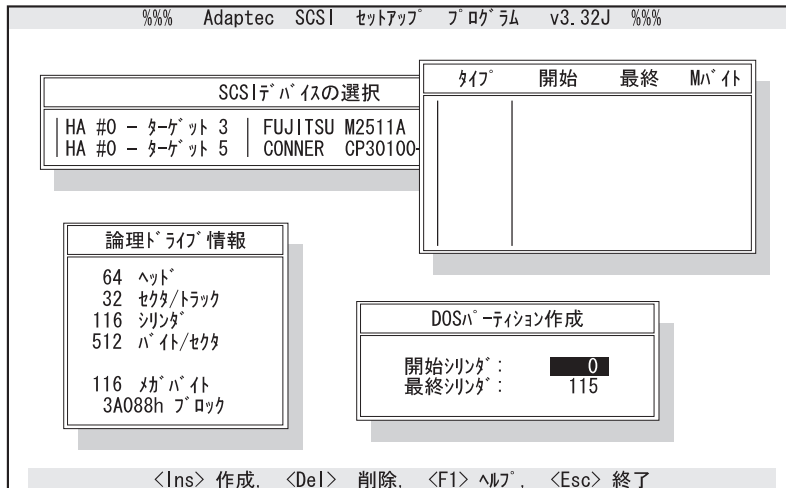
光磁気ディスク (MO) 装置などの、ディスクット・フォーマットを持つ取外し可能媒体装置を選んだときは、AFDISK がそのディスクット・フォーマットを削除したいかどうかを尋ねてきます。その媒体を別のフォーマットにフォーマットし直さないときは、いいえを選んでください。

そのディスク媒体がフォーマットされているときは、AFDISK は次の図に示すように、画面の左下の隅に選んだ物理ドライブについての情報を表示します。次の表は、Adaptec SCSI ホスト・アダプターが使用する装置構成表示です。

ドライブ容量	装置構成表示	シリンダー数
1 GB 未満	トラック当たり 64 ヘッド 32 セクター	利用可能な容量 (メガバイト) に等しい
1 GB 以上	トラック当たり 255 ヘッド 63 セクター	利用可能な容量の 8 MB 当たり 1 シリンダー

そのドライブに現在存在している区画が、画面の右上の隅に表示されます。(前の図に示した例では、区画はありません。)カーソル上方向移動キーまたは下方向移動キー (↑ または ↓) を使用して区画を選びます。区画を削除するには、**Del** キーを押してから、はいを選びます。

- 3 新しい区画を作成するには、**Ins** キーを押します。次の画面が表示されます。



画面の右下に表示されている「DOS 区画作成」ウィンドウは、省略時にはディスク・ドライブの全容量に等しい 1 つの区画を作成することを表しています。この例では 85 MB です。（各シリンダーは 1 MB です。シリンダーには 0 から 84 の番号が付けてあります。）

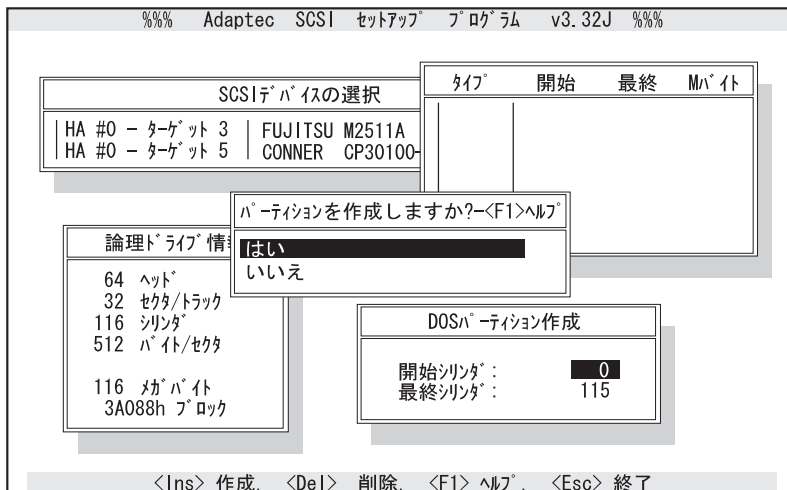
ディスク・ドライブに区画が 1 つだけ欲しいときは、手順 5 (143 ページ) に進んでください。

- 4 開始シリンダーと最終シリンダーの値を変更するには、カーソル上方向移動キーまたは下方向移動キー（↑ または ↓）を使用してこれらを選び、別の値を入力します。

ディスク・ドライブに複数の区画を作成するときは、これらの値を変更しなければなりません。この例では、最終シリンダーの値を 44 に変更して 45 MB の区画を作成できます。その後、シリンダー 45 から 84 に対して 40 MB の区画を作成できます。各区画は **E** や **F** などの別のドライブ名を割り当てられます。

注: ディスクの実際のシリンダー数よりも大きい値などの無効な値を入力すると、AFDISK がエラー・メッセージを表示します。

- 5 必要なシリンダー数を入力したら、**Esc** キーを押します。次のような画面が表示されます。



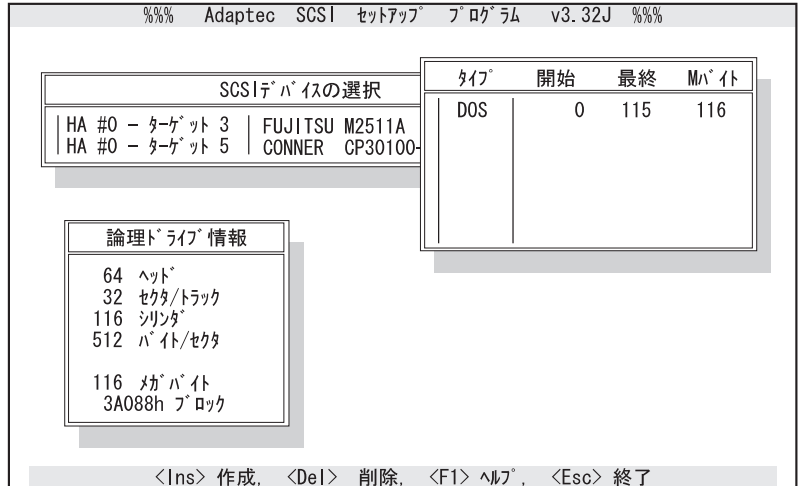
- 6 区画を作成するには、はいを選び **Enter** キーを押します。

区画をもっと作成したいときは、**Ins** キーを押して、手順 3、4、および 5 を繰り返します。

使用している DOS のバージョンに応じて、区画のサイズに制限があります。次の表にその制限を示します。

DOS のバージョン	最大区画サイズ
J6.3/V 以降	1 GB/区画で最大 1 GB/ドライブまで (拡張 BIOS が使用されているときは、2 GB/区画で最大 8 GB/ドライブまで)

区画を作成すると、AFDISK は次の図に示すように区画を画面の右上に表示します。



7 **Esc** キーを押して「SCSI 装置の選択」ウィンドウに戻ります。別のディスク・ドライブをフォーマットしたり、そこに区画を作成したりするときは、一覧表からその装置を選びます。

8 AFDISK を終了するには、**Esc** キーを押し、終了したいかどうかを尋ねられたときには **はい** を選びます。

ディスクの区画を変更したときは、新しく作成した区画にアクセスするために ThinkPad の再始動が必要であることを知らせるメッセージが表示されます。

注: ディスクの区画を追加または削除したときは、EZ-SCSI を再インストールしてシステム構成を更新しなければなりません。

拡張ユニット部の仕様は以下のとおりです。

寸法

奥行		420.3 mm
高さ	前面	85.5 mm
	背面	137.7 mm
幅		395.0 mm
重量		6.9 kg

環境

温度、相对湿度、湿球温度

操作時	温度	5°C 35°C
	相对湿度	8% 95% (非結露)
	最大湿球温度	29.4°C
非操作時	温度	5°C 43°C
	相对湿度	8% 95% (非結露)
	最大湿球温度	29.4°C
保存時	温度	-20°C 60°C
	相对湿度	5% 95% (非結露)
	最大湿球温度	29.4°C

最大高度

2435 m (非加圧状態)

電気特性

発熱量	基本構成		181 BTU/時 †
	最大構成		555 BTU/時 †
入力電圧-正弦波入力 (50 または 60 Hz)	低域	最小	100 V ac
		最大	125 V ac
	高域	最小	200 V ac
		最大	240 V ac
入力キロ・ボルト・ アンペア (k VA) (近似値)	出荷時構成		0.053 k VA
	最大構成		0.163 k VA
注:			
† 英国熱量単位			

外部インターフェース

SCSI ポート	SCSI-2 50 ピン、高密度
ゲーム・ポート	D-sub 15 ピン、受側
オーディオ出力	ステレオ・ミニ・ジャック 3.5 mm
スピーカー入力	ステレオ・ミニ・ジャック 3.5 mm
マイクロホンおよびヘッドホン	ステレオ・ミニ・ジャック 3.5 mm
PCMCIA スロット	タイプ I または タイプ II の PC カードを 2 枚、もしくはタイプ III の PC カードを 1 枚
PCI/ISA 共用スロット	32 ビット PCI バス・コネクタを 3 個 16 ビット ISA バス・コネクタを 2 個

IBM 電源コード

安全のために、IBM では接地プラグの付いた電源コードを提供しています。感電を防止するために、必ず正しい接地端子の付いた電源コードとプラグを使用してください。

特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品(機械およびプログラム)、プログラミング、またはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミング、またはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行なっていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権(特許出願を含む) 商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に書面でお問い合わせください。

〒106 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

商標

本書中の以下の用語は、IBM コーポレーションの米国、その他の国における商標です。

Help Center	SelectaDock
IBM	ThinkPad
OS/2	

以下の用語は、他社の商標です。

Adaptec	Adaptec, Inc.
EZ-SCSI	Adaptec, Inc.
MicroSaver	Kensington Microware, Inc.

Microsoft	Microsoft Corporation
PCMCIA	Personal Computer Memory Card International Association
Sound Blaster	Creative Labs, Inc.

Windows は、Microsoft Corporation の商標です。

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

- アダプター・カード
 - 取付け 59
 - 取外し 63
- インジケーター 11
 - 位置 6
 - サスペンド 11
 - ディスク・ドライブ 12
 - 電源 11
 - ドッキング 11
 - ハード・ディスク・ドライブ 12
- インジケーター、状態の 11
- ウォーム・アンドドッキング 30
- ウォーム・ドッキング 30
- ウルトラベイ
 - イジェクト・ホール 7
 - 後部 HDD コネクター 7
 - コネクター 7
 - 前部 HDD コネクター 7
 - ドライブの取付け 39
 - ドライブの取外し 48
 - トレイ、位置 7
- オーディオ
 - ジャック、位置 8
 - トラブルシューティング 110
- オーディオ出力ジャック 8
- オプション 38
- オプション・ディスク 5
- オペレーティング・システム、始動 118
- 音量調節つまみ 8

〔カ行〕

- ガイド・レール 7
- 拡張ユニット部のセットアップ 19
- 簡易セットアップ 119
 - テスト用 98

- キーの位置 75
- キー・ロック 74
- 機能選択ジャンパー 7
- 機密保護 74, 75
 - セレクトドック・システム 78
 - マルチユーザー・ロック 81
 - ロック 74, 75
 - MicroSaver ロック 78
- 共用のためのセットアップ 80
- ゲーム・ジャンパー 7
- ゲーム・ポート 8
- 警告インジケーター
 - 位置 12
 - 説明 96
 - トラブルシューティング 102
- コールド状態でのドッキング 27
- コールド・アンドドッキング 28
- コールド・ドッキング 27

〔サ行〕

- サスペンド、インジケーター 11
- サスペンド状態 24
- 始動ドライブ 118
- ジャンパー 7
- 修理 115
- 修理の依頼 115
- ジョイスティック・ポート 66
- 診断 98
- スタンバイ状態 24
- スピーカー入力ジャック 8
- 製品仕様
 - 温度 146
 - 外部インターフェース 147
 - 最大高度 146
 - 湿球温度 146
 - 寸法 145
 - 相対湿度 146
 - 電気 147
 - 電源コード 148
- 製品の確認 5

セレクトドック・システム、機密保護 78
セレクトドック・システムの共用 80
外付け SCSI 装置
 接続 69

〔タ行〕

注意事項の見出しについて、説明 vi
テーブル

バックアップ装置、取外し 52
ディスク・ドライブ
 コネクタの位置 7
 使用中インジケータ 12
 トラブルシューティング 106
 取付け 39
 取外し 48
手順
 ウルトラベイ・ドライブ、取付け 39
 ハーフハイト・ドライブ・スペース、取付け 54
 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペース、取付け 50
テスト 98
電源、インジケータ 11
電源コード 5
 部品番号 148
電源コード・コネクタ 9
ドッキング、インジケータ 11
ドライブ名 118
トラブルシューティング・ガイド 100
 アダプターの問題 112
 ウルトラベイのドライブの問題 106
 オーディオの問題 110
 ゲーム・ポートの問題 111
 再現できない問題 112
 資源の競合の問題 113
 始動時 104
 ハーフハイト・ドライブ・スペースの問題 108
 目で発見できる問題 102
 MIDI/ジョイスティック・ポート 111
 PC カードの問題 105
 SCSI 装置の問題 109
 Sound Blaster の問題 110
 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースの問題 107

取付け

 アダプター・カード 59
 ディスク・ドライブ 39
 ハード・ディスク・ドライブ 39
 CD-ROM 39
 IDE ドライブ 56
 PC カード 64
 SCSI 装置 52, 58

〔ハ行〕

ハード・ディスク・ドライブ
 コネクタの位置 7
 取付け 39
 取外し 48, 52
ハード・ディスク・ドライブ、インジケータ 12
ハーフハイト・ドライブ・スペース
 位置 6
 ドライブの取付け 54
 ドライブの取外し 58
 ブランク・ベゼル 6
バッテリー・バック、充電 126
バッテリー・バックの充電 126
標準機能 4
複数ユーザー用ロック 5, 81
ブランク・ベゼル 7
ヘッドホン・ジャック 8
ポート・リプリケータ部ロック 6
ホット・アンドッキング 30
ホット・ドッキング 30
本体正面 6
本体側面 8
本体内部 10
本体背面図 9

〔マ行〕

マイクロ・サーバー・ロック
マルチユーザー・ロック 81
マルチ・ユーザー・ロック
 位置 6

問題

- アダプター 112
 - アンドッキング 102, 103
 - インジケータの誤動作 103
 - ウルトラベイの CD-ROM ドライブ 106
 - ウルトラベイのディスク・ドライブ 106
 - ウルトラベイのドライブ 106
 - ウルトラベイのハード・ディスク・ドライブ 106
 - オーディオ 110
 - キーの紛失 102
 - ゲーム・ポート 111
 - 警告インジケータの点灯 102, 103
 - 再現できない 112
 - サスペンドまたはレジューム 102
 - 資源の競合 113
 - 始動時 104
 - セットアップ 103
 - 電源インジケータ 103
 - ドッキング・インジケータ 103
 - ハードウェアの破損 102
 - ハーフハイト・ドライブ・スペース 108
 - ハーフハイト・ドライブ・スペースの IDE 装置 108
 - ハーフハイト・ドライブ・スペースの SCSI 装置 108
 - ブート 104
 - 目で発見できる 102
 - MIDI/ジョイスティック・ポート 111
 - PC カード 105
 - SCSI 装置 109
 - Sound Blaster 110
 - 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペース 107
 - 1 インチ・ハイト・ドライブ・スペースの SCSI 装置 107
- 問題を起こしている装置の判別 91

〔ラ行〕

- ロック 74, 75
- ロック解除 75

A

- AC 電源コード・コネクタ 9

C

- CD-ROM
 - コネクタの位置 7
 - トラブルシューティング 106
 - 取付け 39
 - 取外し 48, 52, 58

E

- EZ-SCSI 127

I

- IDE
 - ドライブ、取付け 56
 - ドライブ、取外し 58
 - トラブルシューティング 108
- ISA アダプター・カード・スロット
 - 位置 9

M

- MicroSaver ロック 78
 - ホール 7
- MIDI/ジョイスティック・ポート 8, 66

P

- PC カード
 - 機密保護 76
 - 使い方 64
 - ロック 6
- PCI アダプター・カード・スロット
 - 位置 9
- PCMCIA スロット 8

S

- SCSI
 - コネクタ 8
 - コントローラーの設定 85

SCSI (続き)

- サポート・ソフトウェア 127
- 装置、外付け 69
- デバイス・ドライバー 127
- ドライブ、取付け 52, 58
- ドライブ、取外し 52, 58
- トラブルシューティング 107, 108, 109

SCSI デバイス・ドライバー 127

T

ThinkPad と拡張ユニット部の電源のオン・オフ 125

ThinkPad のコールド・アンドocking 28

ThinkPad の使用状態 24

 サスペンド状態 24

 スタンバイ状態 24

数字

1 インチ・ハイト・ドライブ・スペース

 ドライブの取付け 50

 ドライブの取外し 52

IBM

部品番号: 73H9411

Printed in Japan



73H9411